

戦時体制下の高島亀太郎の政治活動について(中)

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに

I 昭和 15 年

II 昭和 16 年 (以上, 前号)

III 昭和 17 年 (以下, 本号)

IV 昭和 18 年

V 昭和 19 年

VI 昭和 20 年

III. 昭 和 17 年

昭和 17 年 (1942) は、前年 12 月に始まったアジア・太平洋戦争 2 年目の年です。本年の戦局は、前半と後半で大いに異なります。前半は、1 月 2 日マニラ占領、2 月 15 日シンガポールの英軍降伏、3 月 8 日ラングーン占領、9 日ジャワの蘭軍降伏、5 月 1 日ビルマのマンドレー占領、7 日マニラ湾のコレヒドール島の米軍降伏等々、次々と米英蘭を駆逐し、東南アジアの諸地域を占領して行きましたが、後半になると、米軍が反撃に出てきます。4 月 18 日には早くも本土初空襲があり¹⁾、6 月 5、6 日にはミッドウェー海戦で日本軍は大敗北し(航空母艦 4 隻を失う)、また、ソロモン海周辺で 4 度にわたる海戦で(8 月 8～9 日第 1 次ソロモン海戦、8 月 24～25 日第 2 次ソロモン海戦、10 月 26～27 日南太平洋海戦、11 月 13～15 日第 3 次ソロモン海戦)、大きな被害を受け、敗北し

1) 空母ホーネットから発進したドーリットル陸軍中佐のひきいる B 25、16 機が、東京、川崎、横須賀、名古屋、四日市、神戸等を初爆撃。

ています。さらに8月からはガダルカナル島の激戦で、大敗北し²⁾、年末に撤退を決定し、また、10月には、ニューギニアに米軍が上陸し、敗退を続けるなど、戦局は完全に逆転しています。

他方、国内政治体制面では、東条独裁体制の完成期です。この年、東条英機内閣は、翼賛体制強化を行っています。まず、1月16日大政翼賛運動の実践部隊として、翼賛会の外郭団体である大日本翼賛壮年団を結成し、ついで、議会の翼賛化、議員の翼賛議員化をねらい、4月30日に第21回衆議院選挙、いわゆる「翼賛選挙」を実施し、翼賛候補を多数当選させています(466人中、381人)。選挙後、5月20日には、東条内閣の肝入りで翼賛政治会が結成され(会長は元首相、陸軍大将の阿部信行)、ほとんど全ての議員が加入し、政府提出の重要法案はほとんどすべて無修正で通過し、帝国議会は全く東条内閣の従属的翼賛機関になり下がりました。亀太郎も翼賛議員であり、翼政会に入っています。

この翼賛議会体制の確立について、東条内閣はこの年、大政翼賛会を改組して人民支配を統制強化しています。すなわち、6月23日の閣議で「国民運動団体統制に関する件」を決定し、従来内務、文部、農林、商工の各省によって指導されていた大日本産業報国会、農業報国会、商業報国会、海運報国会、大日本青少年団、大日本婦人会の6団体を、翼賛会の傘下に統合し、各団体の組織・監督・予算・人事等全て翼賛会が掌握しました。さらに、8月14日の閣議で「部落会町内会等の指導方針」を決定し、部落会、町内会、隣組を翼賛会の指導下におき、部落会、町内会に大政翼賛会の世話役を、隣保班に世話人を置くことを決め、翼賛会と地方行政組織の一体化を進め、翼賛体制を完成させています³⁾。

さて、日記を参照しながら、昭和17年(1942)の亀太郎の政治活動面(宇和

2) 8月7日には米軍がガダルカナル島の日本軍建設の飛行場を占領、それを奪還しようとして、一木支隊、川口支隊、第2師団、第38師団の総計3万1400名程を逐次投入したが、失敗。ついに12月31日の御前会議でガダルカナル島撤退を決定。

3) 木坂順一郎「大政翼賛会の成立」(岩波講座日本歴史20 近代7)、由井正臣「太平洋戦争」(岩波講座日本歴史21 近代8)。

島市長・衆議院議員)を見てみましょう。

1月1日、亀太郎は新年の拝賀式に臨み、宇和島市長として「大東亜戦争」への「職域奉公」を誓っています。「午前九時市役所行キテ拝賀式ニ参列シ、庁員及ビ市民有志多数ト共ニ両陛下ノ御真影ヲ拝ス。式後、市長トシテ年頭ノ祝辞ヲ述べ、聖戦六年、客臘来大東亜戦争ノ新段階ニ入りテ、国家超非常時ノ今日、一層職域奉公ニ邁進シ、臣子ノ本分ヲ尽サンコトヲ誓フ。十時ヨリ宇和津彦神社、法円寺へ詣り、親戚ノ家ノミヘ賀礼ニ廻リテ、正午迄ニ帰宅シ、午後ハ家ニアリテ年賀ノ来客ニ接ス」。

1月2日～4日は年始客の応対をし、4日にマニラ占領のニュースを聞いています。「皇軍一昨日来マニラ入城。昨日完全占領ノニュースヲ聴ク」(1月4日)。

1月5日以降、市長としての仕事を始めています。「午前八時和霊神苑ニ於ケル警防団観閲式ニ参列シ、市長トシテ告辞ヲ陳べ、警察署長ト共ニ分列式ヲ受礼ス。十一時ヨリ登庁シ、午後中学校長、女学校長、大和田伊達家主事等、数組ノ来訪者ニ接ス。四時退庁、五時ヨリ城東館へ行キテ署長、警防団長等観閲式関係ノ幹部数氏ト夕食ヲ共ニシタリ」(1月6日)。

1月8日に、東条内閣は興亜奉公日を廃止し、大詔奉戴日としました⁴⁾。それに伴い、亀太郎は、この日市役所の職員を集めて、宣戦詔勅を奉読しています。

「午前十時登庁シ、今月ヨリ興亜奉公日ヲ廃シテ、八日ヲ以テ大詔奉戴日ト定メラレタルヲ以テ、庁員ヲ集メテ宣戦詔勅ヲ捧読ス」(1月8日)。

1月10日には、亀太郎は松山へ行き、愛媛県翼賛壮年団の結成式に出席して

4) 「興亜奉公日」は、国民精神総動員運動の一環として、昭和14年9月1日から、毎月1日を興亜奉公日と名付け、実施されたもので、具体的には、全国民が朝早く起きて神社に参拝する、食事は一汁一菜と質素に切り詰める、禁酒・禁煙をする、子供は梅干し一つの「日の丸弁当」とする、各人勤労奉仕に勤める、飲酒・接客の各業種は休業することというもので、まことに詰まらない日であった(三國一郎『戦中用語集』より)。それを東条内閣は17年1月8日から、毎月8日を「大詔奉戴日」に切りかえ、「大東亜戦争完遂」という目的を国民に浸透させようとした。具体的には、官公衙・学校等での詔書奉読、寺院・教会等での必勝祈願、国旗掲揚、職域奉公等であった(『愛媛県史 資料編 近代4』568頁)。

います。この翼賛壮年団は、大政翼賛会の青壮年団体組織です。正式名称は大日本翼賛壮年団（翼壮）です。周知のように、大政翼賛会は近衛内閣下の昭和15年10月に結成されましたが、16年春の第76議会で衆議院・貴族院双方から批判にさらされ、そこで、政府側（近衛内閣）は、大政翼賛会は政治結社でなく、公事結社（非政治団体）とし、4月に機構・人事も改組され、内務省と警察主導下の行政補助機関に衣替えしていました⁵⁾。16年10月18日東条内閣誕生し、東条が大政翼賛会総裁に就任すると、東条は翼賛会の強化に乗り出し、「強力なる政治力と実践力」の結集を図りました。その一つが「翼賛壮年団」の結成でした⁶⁾。この「翼壮」は全国的には17年1月16日に結成され（団長は大政翼賛会副総裁の安藤紀三郎）、道府県、市町村にも支部が作られています。愛媛県ではそれに先駆けて、1月10日、県教育会館にて結成され、亀太郎も参加しました。

亀太郎は、翼賛壮年団愛媛支部の結成式に参加の後、宇和島市長として、宇和島中学学級増加や港湾整備等市の要望について県と交渉しています。「県庁へ行キテ、庶務課ノ浮田属等ト市ノ用件ヲ談ジ、三時赤松勲君、黒田三間町長等ト共ニ中学校学級増加ノ件ニテ、阿部総務部長ト面談ス」（1月10日）、「午前十時ヨリ県庁へ行キ、先ヅ土木課ヲ訪ヒテ日野主事等ニ会ヒ、又都市計画ノ主任技師齋藤君ト共ニ、道後南町ノ宅ニ千葉土木課長ヲ訪ヒテ、市ノ港湾及ビ都市計画ニ対スル用件ヲ弁ジ、正午県庁へ帰ル。午後引続キ市関係ノ諸用件ニテ、

5) 木坂「前掲書」及び『翼賛国民運動史 上巻』212～217頁。この改組で近衛のブレーン有馬頼寧事務総長、後藤隆之助組織局長らが辞任し、本部機構も改革された。議会局は議会側の意向を取り入れて廃止された。地方支部組織はそのまま、地方長官を支部長にすることが決められ、内務省主導が強まった。

6) 『翼賛国民運動史 上巻』231～234頁。大日本翼賛壮年団史については『翼賛国民運動史 下巻』893～926頁。なお、木坂順一郎は「前掲論文」で、「翼賛壮年団」は大政翼賛会の改組に不満をもった陸軍省軍務局長の武藤章らが青壮年の自発性を喚起しようと、ナチスの親衛隊にヒントを得て、大政翼賛運動の実践部隊として、組織を企てた団体で、選挙活動に取り組み、多くの団員を当選させ、また、翼賛運動の過程で、大政翼賛会や翼賛政治会、地方官庁など既成組織の生ぬるさを激しく攻撃し、対立するなど、下からの急進ファシズムの運動を展開したと指摘している（また『日本史大辞典』）。また、森武麿「日本ファシズムと農村協同組合」（『戦時農村社会の研究』第3章）も同様の見解。

商工課，総務課，農政課，警防課，社寺兵事課，庶務課，振興課，社会課ヲ訪ヒテ，夫レ々々対談交渉ノ上，三時迄ニ大体用向ヲ了リ，更ニ松山市役所へ寄リテ庶務課長ニ会ヒ，城戸屋ニ帰ル。四時二十五分ノ列車ニテ松山ヲ出発シテ，帰途ニ就ク」(1月12日)等。

1月13日，14日は，市長として宇和島市の17年度予算の編成やその他の仕事をしています。「午後一時半登庁ノ上，助役，庶務課長ト予算編成等ニ就テ協議シ，五時過迄事務ヲ見テ帰宅ス」(1月13日)，「十一時ヨリ午後四時迄市務ヲ処理シ，市民税賦課額人名表ヲ査定シ，次年度予算編成上ノ指示ヲ与ヘ，且鶴島国民学校々舎建築ノ指名入札ヲ行ヒ，結局拾貳万五千九百円ニテ契約ヲ取極メ，又ハ数組ノ来訪者ニ面接スル等多忙……」(1月14日)。

1月15日，亀太郎は，再開される第79回帝国議会(昭和16年12月26日開会，17年3月25日閉会)に出席のため，上京の途につきます。またあわせて，未開通の八幡浜・卯之町間の鉄道建設促進活動のため，山口，広島を訪れ，陳情活動をしています。1月16日に，山口市の鉄道省山口工事事務所を訪れます。

「午後一時三十分山口市ニ着シ，直チニ鉄道省山口工事々務所ヲ訪フ。小早川所長，萩森工事課長，庶務課長ニ面会ノ上，八幡浜，卯之町間ノ鉄道工事促進方ニ就テ懇談要望スルコト一時間余。地方トシテノ協力方ヲ申出デ，先方モ考慮ヲ約スル所アリ」。17日には広島の子品にある広島鉄道局に行き，同様の陳情をします。「十時半広島へ着シテ，子品ノ広島鉄道局ヲ訪ヒ，局長ニ面会シテ，卯之町・八幡浜間ノ工事促進トバス連絡上列車回数増加等ニ就キ，陳情スル所アリ」。

1月18日の朝，亀太郎は東京に到着し，上京中の陳情団と打ち合わせをしています。「午前七時三十分東京ニ着シ，呉服橋龍名館ニ投宿ス。……二時間程遅レテ，毛山，黒田，西君来着。両三日前ヨリ先着ノ赤松勲，尾下鶴正両君モ来リ会シ，鉄道省へ陳情方ニ就キ，打合ノ上，上京一行ト虎之門曙荘へ行キテ昼食ス。本日ハ日曜日ナレバ，午後銀座ヲ散歩シ，四時ヨリ歌舞伎座へ案内シテ，共ニ幸四郎劇ヲ見物シ，九時半宿ニ帰レリ」。なお，記事で，毛山森太郎は北宇

和郡選出の県議(旧民政党)、黒田は北宇和郡自治会長、西一は南宇和郡選出の県議(旧政友会)、赤松勲は北宇和郡選出の県議(旧政友会)、尾下鶴正は東宇和郡選出の県議(旧民政党)です。

1月19日は、陳情団と共に、鉄道省や農林省に陳情しています。「午前九時半吾室ニテ、毛山、黒田、西、赤松、尾下ノ五氏ヲ会シ、共二十時ヨリ鉄道省ヘ行キ、又農林省ヘ行キテ、水産局長ニ面会ノ上、地方ノ漁業者出漁区ノ問題ヲ、同局施設課長ヘハ漁港ノ件ヲ陳情ス。丸ビルノ竹葉亭ニテ昼食ノ後、午後一時更ニ鉄道省ヲ訪ヒテ鉄道次官長崎氏ニ会ヒ、卯之町・八幡浜間促進及ビ宇和島・宿毛間敷設ニ就キ、説述要望スル所アリ。建設局長ニモ同様面会陳情ノ上、三時帰宿ス」。

1月19日、鉄道陳情も終わり、以降、亀太郎は衆議院議員としての活動が始まります。以下、東条内閣下の第79回帝国議会⁷⁾の状況や亀太郎の議員活動等について見てみます。

1月20日には、翼賛議員同盟⁸⁾の議員総会、予算委員会の打ち合わせ(亀太郎は予算委員会の常任委員です)等をしています。

1月21日に休会明けの議会が始まりました。東条首相等の演説、陸海相の戦況演説を聞いています。「午後一時本会議ニ列ス。休会明ケノ本年初議会ニシテ、予ノ議席ハ予算委員タル為メ変更シテ三六四番トナレリ。東條首相、東郷外相、賀屋蔵相ノ施政演説、陸海両相ノ戦況報告アリ。翼同代表岡田忠彦氏ノ質問アリテ、四時過散会ス」。

1月22日～26日には、予算委員会に出席しています。17年度予算86億9800万円が審議されています。さらに26日の予算委員会に、太平洋戦争遂行に伴う臨時軍事費180億円が提出され、審議されています。「午前十時登院。予算委員

7) この議会には、昭和17年度予算案の外、食糧管理法案、日本銀行法案等が提出されている。

8) 政党解消後の昭和15年12月20日、大政翼賛会の議会局に入った旧政党人達が衆議院倶楽部を結成していましたが(尾崎行雄ら7人を除き全員参加)、翼賛会の改組により、議会局が廃止されたので、昭和16年9月2日に議員倶楽部を解消して、翼賛議員同盟を結成したものの。亀太郎も翼賛議員同盟に属していた。

会ニ出席ス。正午休憩。午後一時再会。臨時軍事費予算百八十億円ノ提出アリ。東條首相ノ説明、秘密会トナリテ、陸海両相ヨリ戦況及ビ戦備軍備ノ大要説明アリ。明日可決ノ筈」(1月26日)。予算案は委員会でもまだ審議中ですが、その夜、亀太郎は、愛媛県人会、旧政友会久原派の懇談会に参加し、後、宇和島市長としての仕事のために、一時帰途につきます。「予ハ四時退出、帰宿シ、五時ヨリ丸之内中央亭ニ於ケル愛媛県人会ニ出席。七時日比谷山水楼ニ於ケル旧久原派議員ノ懇談会ニモ出席ノ上、九時四十分ノ下り急行列車ニテ東京ヲ出発シ、一旦帰国ノ途ニ就ク。二等寝台ニ入りタリ」。

1月28日に帰宇した亀太郎は、市長として仕事を精力的にこなしています。例えば「十一時市役所ニ登庁ス。午後一時市会ヲ開キ、委員附託中ナリシ市民税賦課額ノ決定、其他ノ議案ヲ可決ス。議長ハ先日、予、不在中交替シテ、薬師神岩太郎君ナリ。二時半閉会。県ヨリ阪野経済部長初巡視ニ来宇、来庁アリシガ、六時蔦屋ヘ行キテ夕食ヲ共ニシ、七時過ヨリあづまニ於ケル市主催市会議員ノ慰労宴ニ出席ス」(1月30日)、「午前県ノ木村君来訪。武田、川村ノ諸君モ来リ、共ニ話ス。引続キ九島ノ連中陳情ニ来リ、其他ニモ二、三ノ来訪者アリ。午後二時ヨリ市ノ藤井助役、宮田庶務課長ヲ宅ヘ招キテ、編成中ナル十七年度予算ヲ検討ニ着手シ、六時頃暫ク老松ヘ行キテ、製氷会社ノ経済部長招待ニ陪席シタルガ、直チニ帰りテ、又予算調べニ当リ、助役、課長ニ今後ノ査定ト県ヘ交渉ノ方針ヲ授ケテ十一時漸ク終了シタリ」(1月31日)等。

宇和島市の予算編成を終えた亀太郎は、2月1日、再び議会出席のため、上京し、3日の朝、到着しています。そして、3日の本会議で、17年度予算案が異例の速さで可決されています。「午後一時衆議院ニ登院ス。直チニ本会議ヲ開キ、皇族席ニ三笠宮殿下台臨アリ。一般会計及ビ追加共八十七億ノ予算案ヲ附議、松村委員長ノ報告、各派代表木暮、安藤諸氏ノ賛成演説アリテ、原案ヲ可決シ、他ノ議事モアリテ四時過散会ス」(2月3日)。なお、記事中、小暮は小暮武太夫(翼賛議員同盟)、安藤は安藤正純(同交会)です。

2月4日以降も議会が開かれていますが、予算が通過したため、亀太郎は比

較的暇です。夜はよく懇親会に出席するなどしています。4日は午前在宿、午後木材関係議員の協議会に出席、後、伊達家へ行き、中学校敷地譲渡を要望し、夜は久原派の懇親会に出席しています。5日は午後本会議に出席し、また、商工議員連盟の会合に出席するなどしています。6日は午前内務省国土局港湾課を訪れ、後、鎌倉の華宵宅へ行き、夜は二神駿吉⁹⁾主催の懇親会に砂田重政(愛媛県選出、元衆議院議員)、佐々木長治(愛媛県選出、貴族院議員)らと出席しています。7日は午前在宿、午後本会議に出席しています。8日には、宇和島から宮田庶務課長が上京し、宇和島市の17年度予算案について県との折衝結果を報告に来て審議しています。9日は午前在宿、午後買物し、10日も午前在宿、午後は同郷人の会(二火会)、夜は丁丑会の懇親会に出席しています。

2月11日は紀元節の日で、午後宮中参拝をしています。天皇崇拝の亀太郎の様子が伺われます。「午后一時服装ヲ改メテ、紀元節ノ宮城参拝ニ赴ク。二重橋ヨリ参入シ、恭シク宮中三殿ノ大前ニ額付キテ禮拜ノ後、東御車寄ニテ奉伺ノ記帳ヲナシ、退出ス。例年ニ比シ、特ニ参拝者多ク国威ノ八紘ニ輝クヲ覚ユ。帰宿後、三時ヨリ三越ヘ行キテ買物シ、六時ヨリ東宝歌劇ヲ見物シテ、九時過歸リタリ」。

2月12日は、午前商工省を訪れ、陳情し、また午後本会議に出席し、夜、佐々木長治主催の宴会に、愛媛県選出の議員と共に出席しています。

2月13日は、午前農林省蚕糸局、全糸連等へ行き、午後は本会議に出席し、夜は、華宵らと食事をしています。14日は午後本会議があり、安達謙蔵外105名による「軍人以外の従軍者に対する感謝決議」、「昭和十五年度の歳入歳出総決算」等が可決されています。後、議会は暫く休会となっています。

2月15日の夜、亀太郎は、帰国の途についています。ところが、帰国の途中の16日の朝にシンガポール陥落、英軍降伏のニュースを聴き、急遽16日に議会が開かれることになり、車中、引き返すことを考えましたが、間にあわない

9) 二神駿吉は南宇和郡城辺町出身、元衆議院議員、旧政友会、大日本人造肥料、樺太開発会社社長等歴任。

ので、そのまま帰国しています。

なお、2月16日に開かれた帝国議会では、シンガポール陥落について、東条首相の演説、陸海相の戦況報告があり、そして、安達謙蔵外103名による「シンガポール陥落ニ付祝賀竝感謝決議」が出され、戦勝ムードで沸いているようです¹⁰⁾

帰国後の2月17日、亀太郎は感冒にかかりましたが、仕事をしています。「感冒ノ為メ引籠リ居レドモ、朝来、予ノ帰郷ヲ知りテ来訪ノ客多ク、午前中中学校長外二、三、市助役又庶務課長モ来リ、予算案県査定終了ノ報告等ヲ聴ク。午后病床ヲ向ヒ家ヘ移シテ、赤松、二宮ノ両中学校父兄会委員、新聞記者其他ノ来訪者ニ接シ、夕方田中医師ノ来診ヲ受ク」。

2月18日も病気ですが、登庁し、戦勝の祝賀式を挙行し、また市の予算等の業務をしています。「第一次戦勝祝賀ノ日ナレバ、午前九時半登庁シ、玄関前ニテ国民学校生徒ノ旗行列ヲ受礼シ、十時祝賀式ヲ議事堂ニ挙グ。予、宣戦ノ詔勅ヲ奉読シ、式辞ヲ述ブ。式後來庁ノ訪客ニ接シ、正午市立病院ヘ行キテ佐伯院長ニ面会シ、病院予算ノ市費繰入額ニ就テ懇談ノ結果、諒解ヲ得、懸案ノ落着ヲ見タリ。一旦帰庁シテ午后三時迄市務ヲ見、帰宅直チニ臥蓐ス」。

2月19日以降も、病気をおして、市長としての仕事をこなしています。「正午来宇中ノ畠田知事ヲ薦屋ニ訪問シ、午后三時迄在庁政務ヲ見ル。帰宅後亦三、四ノ来客ニ接シ……」(2月20日)、「十時登庁、学校建築委員会ヲ開キ、午後一時、財産処分委員会ヲ開ク」(2月24日)、「午前九時柿原、大野嘉十治君方ヘ行キテ、息ノ戦死ヲ弔問シ、十時登庁。商工会議所ニ於ケル森林組合ノ總會ニ臨席ス。午後一時市常会ヲ開キ、予説明ニ当ル。三時了リ、四時迄市役所ニアリ。あづまヘ行キテ同家若主人藤原忠男君ノ応召留別ノ宴ニ出席シ、予、壮行ノ辞ヲ陳ブ。風邪尚全ク癒ヘズ、早ク帰リテ臥蓐シタルガ、体温三十八度三分迄昇レリ」(2月25日)等々。

10) 『第七十九回帝国議会衆議院議事速記録』2月16日。

2月26日、熱が漸く下がり、開会された宇和島市会で17年度の予算案の説明をしています。夜は蔦屋にて、市会議員に対し、予算の説明をしています。慣例のようです。「朝、熱下り、快方ニ向ヒタレバ、九時過登庁ス。十時鉄道省山口工事々務所長小早川氏、工事課長等二、三ヲ随ヘテ来庁シ、八幡浜卯之町工事ニ対シ、地方ヨリ労力供出方ノ交渉アリ。関係町村ト共ニ之ニ協カスベキヲ約ス。十一時ヨリ予算市会ヲ開キ、薬師神議長ノ下ニ会議ヲ進ム。予、予算編成ノ方針ヲ説明シテ、正午休憩。午后続行。第一読会ノ質疑応答ヲ了リテ、三時散会シ、予ハ和霊町ノ鉄道工事々務所ヘ行キテ所長等ト打合ノ上、五時蔦屋ヘ行キテ、市会議員ニ予算内容説明ノ会ニ臨ム。一時間斗リニテ全部了リ、予ト議長トハ老松ニ於ケル小早川所長一行招待ノ会ニ赴キテ懇談シ、九時帰宅セリ」。

2月27日も予算市会です。市会も翼賛体制で、僅か2日間で即決で予算を可決しています。亀太郎は山村市長以来だと賛辞しています。「午前九時半登庁、十時市会ヲ開キ、第二読会ニ移リテ、数氏ノ質問アリ。午后、予ヨリー々答弁ノ上、予算案可決。次デ特別会計ノ各予算案関係諸案等一瀉千里ニ可決確定シ、三時全部ヲ議了シテ、市会ヲ閉会ス。建設的ノ翼賛体制ニシテ、無修正ヲ以テ僅々二日間ニ結了シタルコトハ、初代山村市長ノ第一回予算市会以来二十年間、曾テ見ザリシ所ナリ。五時ヨリあづまニ於テ其慰労会ヲ開催シ、議員各参与員、警察特高係、新聞社等関係者一同ニ対シテ、予、挨拶ヲナシ、議長ノ答辞アリ、円満裏ニ散会。九時帰宅ス」。

宇和島市の予算が決まり、2月28日以降、亀太郎は暫くゆっくりしています。

3月4日、日記に記述はありませんが、この日、亀太郎は宇和島市長辞職届けを助役に出しています。理由は、この4月に行われる予定の衆議院選挙に再度立候補するためです。以後も市長としての仕事を続けています。

3月6日、宇和島市で鉄道促成同盟会の会合を開いています。八幡浜・卯之町間の鉄道工事の労力提供方を決議しています。「十時過ヨリ鉄道促成同盟会ノ会合ヲ議事堂ニ開ク。東宇和、西宇和、北宇和ノ関係町村長、八幡浜市助役等

三十名来会ノ上、八幡浜・卯之町間国鉄工事ニ対シ、労務者百名供出、其他人的物的資源ノ協力方ヲ決議シ、各町村ノ割当数ヲ定ム。午後一時閉会。……」。

3月7日には、満蒙開拓少年義勇軍の壮行会を開き、鼓舞しています。「午後一時ヨリ和霊神苑ニ於ケル満蒙開拓少年義勇軍十八名ノ壮行会ニ臨ミ、市長トシテ激励壮行ノ辞ヲ述ブ」。

3月10日は陸軍記念日(日露戦争の奉天会戦勝利の記念日)です。その挙式に出席し、生徒を鼓舞しています。「午前十時、団服ニテ中学校々庭ヘ行き、第三十七回陸軍記念日ノ挙式ニ列ス。中等学校、国民学校、青年学校生徒多数参加。予、式辞ヲ朗読シ、又分列式ノ受礼ヲナス。式後市役所ヘ帰りテ、正午ヨリ午後四時マデ執務シ、後、国松君ヲ訪問シ、六時帰宅ス」。

3月11日の朝、亀太郎は再び、第79帝国議会に出席のため、上京の途につき、12日の朝、東京に到着しています。

3月12日、議員総会、本会議に出席しています。日本軍は3月8日にビルマの拠点ラングーンを、翌9日には蘭領東印度を占領した直後であり、議会も国民も戦勝ムードに沸いています。本会議では東条首相の演説、陸海相の戦況報告があり、安達謙蔵外103名による「蘭印戡定竝蘭貢攻略ニ付祝賀感謝決議」が提案されるなどしています。¹¹⁾「正午衆議院ニ登院シ、議員総会アリテ、午後一時本会議ニ出席ス。第二次戦勝祝賀ニ就テ、東條首相ノ決意宣言、陸海両相ノ戦況報告ニ次デ、満場一致感謝決議ヲナシ、三時前散会、帰宿ス。市中、宮城前ハ、祝賀ノ団体続々到来シテ賑ヒタリ」。

3月13日以降、議会はまた暫く休会となり、亀太郎は再度、帰国の途につき、途中数日間松山に滞在しています。3月16日は、松山市での市長村長会へ出席し、また県庁へ行き、鉄道敷設工事の資材供出等の陳情をしています。

さて、1年間延期していた第21回衆議院選挙が迫っています。¹²⁾

11) 『第七十九回帝国議会衆議院議事速記録』 3月12日。

12) 前回の衆議院議員選挙(第20回)は、昭和12年4月30日であり、本来16年4月末日をもって満了のはずでしたが、16年2月、時の近衛内閣は非常時を理由に、任期を1年延長していました。

東条内閣は戦争遂行の翼賛政治体制を構築するために、翼賛議会の確立、翼賛選挙を企てました。去る2月18日の閣議で「大東亜戦争翼賛選挙貫徹運動基本要綱」を決定し、候補者を推薦することを決め、さらに、2月23日に軍部・大政翼賛会・財界・農業団体・貴衆両院・その他の代表33名を招き、「翼賛政治体制協議会」を結成しました（会長は元首相、陸軍大将阿部信行）。「翼協」は「政事結社」です。この「翼協」が、東条内閣の肩代わりして候補者の推薦と選挙運動を行うことにしたのでした。3月には「翼協」は各道府県に支部を設立しています。そして、候補者の推薦は内務省・警察および軍部がひそかに作った「立候補適格者」名簿にもとづき、各支部が選考した候補者を本部に内申し、決定するやり方をとりました¹³⁾。その点愛媛県でも同様です。

3月17日、亀太郎は大政翼賛会の愛媛県協力会議¹⁴⁾に出席しています。議案は「翼賛選挙貫徹運動基本要綱」です。そこで、4月に行われる総選挙について、候補者推薦が議論されているようです。日記に「午前十時半、教育会館ニ於ケル県協力会議ニ参列ス。協議、決議ヲナシ、意見多シ。主トシテ総選挙ノ候補者推薦様式ニ関スル事柄ナリ」とあります。大政翼賛会は、東条内閣の意向に沿い、翼賛選挙運動に取り組んでいます。しかし、「意見多し」とあり、現職代議士との間で、対立があったことが伺われます。

3月18日は、選挙粛清委員会に出席しています。ここでも候補者推薦が議論されていますが、現職代議士より質問続出しているようです。「午前十時県公会堂ニ於ケル選挙粛正委員会ニ出席ス。知事ヨリ説明アリ、現代議士其他ノ委員ヨリ推薦ニ関スル質問続出シタルガ、正午頃迄ニ議事ヲ了リテ、粛選ノ決議ヲナシ、閉会ス」。

ところで、推薦候補の選定にあたって、警視庁情報課作成が「衆議院議員調

13) 由井「前掲論文」69～70頁。

14) 大政翼賛会の愛媛県協力会議は昭和16年4月22日結成。議長は陸軍中将烏谷章。昭和17年3月17日開催の第3回協力会議では議案が「翼賛選挙貫徹運動基本要綱」であり、この会議で、候補者推薦が議論されたようである（翼賛運動史刊行会編『翼賛国民運動史 下巻』827頁、『愛媛県史概説 上巻』568頁）。

査表」(特秘扱)を昭和17年2月に作成しています。それは現職代議士を時局認識から甲、乙、丙の3ランクに分けている驚くべき資料です。甲は「時局ニ即応シ率先垂範国策遂行ノ為メ他ヲ指導シ代議士タルノ職務ヲ完遂シ得ル人物ト認メラル、者」、乙は「積極的活動ナキモ時局ニ順応、国策ヲ支持シ反政府的言動ナキ人物ト認メラル、者」、丙は「時局認識薄ク徒ラニ旧態ヲ墨守シ常ニ反国策的・反政府的言動ヲナシ又ハ思想的ニ代議士として不適當ナル人物ト認メラル、者」となっています。そして、このマル秘資料による愛媛県の8名の現職代議士の分類分けは次のようになっていました。

表1 衆議院議員調査表

選挙区	会派	種別	氏名	年齢	旧党派	立候補の場合の当落予想
第一区	翼同	乙	武智 勇記	49	民政党	当
第一区	〃	丙	大本貞太郎	59	中島派	不明
第一区	〃	丙	松田喜三郎	63	民政党	不明
第二区	興同	乙	河上 哲太	62	中島派	落
第二区	翼同	乙	村瀬 武男	64	民政党	不明
第二区	翼同	丙	小野 寅吉	77	〃	不明
第三区	〃	乙	高島亀太郎	60	久原派	不明
第三区	〃	丙	村上紋四郎	78	民政党	落

(出典)『資料日本現代史4 翼賛選挙①』137頁。

亀太郎は乙に分類されています。勿論このような資料は会議には配付されるはずはありませんが、推薦に関与する「翼協」支部の関係者には配られ、候補者選定に当たったの基準になったものと思われます。このような資料が作成されているとは知らず、亀太郎は3月24日、再び、第79帝国議会に出席のため、上京の途につきます。

3月25日の朝、東京に到着し、登院します。議会の最終日です。また、議員の任期が切れます。夜は旧久原派の懇親会に出席しています。「十時過東京ニ着シ、龍名館ニ投宿ス。十一時半衆議院ニ登院。議員総会アリテ、午后三時本会議ヲ開キ、建議、請願両委員長ノ報告ヲ可決シ、首相ノ総選挙ニ対スル声明ア

り。田子議長会期終了ノ挨拶ヲナシ、議員一同五ケ年ノ任期ヲ全フシテ感深シ、四時散会退出シ、三越等へ廻リテ帰宿シ、六時ヨリ山王星ケ岡茶寮ニ於ケル岡田忠彦氏主催ノ代議士招待会ニ出席ス。旧久原派ノ同志議員ノミニシテ、互ニ総選挙対策ヲ語り、懇談時ヲ移シテ記念撮影ヲモナシ、九時過散会シタリ」。

3月26日が、議会の閉院式です。「十時半モーニングヲ着用シテ登院シ、十一時貴族院ニ於ケル閉院式ニ列ス。式後一同宮城へ赴キ、東溜間ニテ待ツコト少時、十二時正殿ニ於テ陛下ノ拝謁ヲ賜フ。了ツテ豊明殿等ニ於テ、大臣、政府委員、貴衆両院議員ニ賜饌アリ、予等ハ南溜間ニ於テ之ニ列シ、御紋章入ノ御菓子及ビ御蓑ヲ頂戴シテ退出。バスニテ一旦衆議院へ帰りテ後、午后三時永田町首相官邸ニ於ケル慰労ノ招宴ニ行キ、四時帰宿、五時三越ノ青龍展ヲ観、夜上野ノ寄席へ行キタリ」。

3月27日に亀太郎は帰国の途につき、30日に帰宇しています。

さて、亀太郎が東京からの帰国の最中の、3月27日から29日までの3日間、松山で翼賛政治体制協議会愛媛支部が結成されました。支部長は大政翼賛会愛媛県協力会議議長・大政翼賛会愛媛県支部顧問の陸軍中将烏谷章で、他の委員は、相田梅太郎（原町村長、県会議長、伊予果物同業組合長）、伊藤角一（県壮年団長、愛媛県教育同志会代表）、藤谷隆太郎（元県農会技師、翼賛会愛媛支部組織部長）、岡田温（愛媛県農会顧問、翼賛会顧問）、平山徳雄（伊予合同銀行頭取）、関谷清（陸軍少将）、岩崎一高（元政友会代議士、元松山市長）、原真十郎（波止浜町長、波止浜塩業組合長、愛媛県町村会長、元県議）、鈴木秀次（海軍大佐、翼賛会県参与）、阿部秀太郎（今治市長）、三品尚起（市壮年団長）、佐々木長治（貴族院議員）、太宰孫九（元県議、元代議士、伊予鉄道社長、松山商工会議会議長）、酒本静市（県産業報国会副会長）、近藤正平（愛媛合同新聞社長）でした¹⁵⁾。そして、この「翼協」支部の会議で衆議院議員推薦候補者の選定がなされています。亀太郎にとって大変気になっていたと思われますが、亀太郎も

15) 『資料日本現代史 4 翼賛選挙①』171頁、『愛媛県史 人物』等より。

候補者の一人に推薦されました。推薦候補者は、第一区で武智勇記・岡本馬太郎・堀本宜実、第二区で山中義貞・河上哲太・村瀬武男、第三区で野本吉兵衛・毛山森太郎・高島亀太郎の9名でした。日記に「二十七，二十八，二十九日ノ三日間ニ亘リ，松山ニ於テ開カレタル翼賛政治体制協議会愛媛支部ノ衆議院議員候補者推薦委員会ニテハ，予モ推薦ニ内定シタル様子ナリ」（3月29日）とさりげなく書かれています。なお，現職代議士で翼政協の推薦を受けたのは，武智・河上・村瀬・高島の4名に過ぎず，大本貞太郎，松田喜三郎，小野寅吉，村上紋四郎の4名が排除されています。先の警視庁情報課作成の表と比較しますと，推薦を受けたのは乙のみで，丙と烙印を押された大本ら4名の現職代議士はいずれも推薦されませんでした。このように，推薦候補の選考は完全に警察情報通りになっていることが判明します。他の5人の新人の推薦候補者は，いずれも大政翼賛会の愛媛県支部の役員や，翼壮の役員等が推薦されています¹⁶⁾。

4月1日，衆議院議員候補者の推薦を受けた亀太郎は市会を招集し，去る3月4日に提出した市長辞職届けの承認を求め，承認されています。「午前十時登庁ス。十時半市会ヲ開キ，薬師神君議長席ニ就キ，予ガ三月四日，助役ノ許ニ提出シタル市長辞職届ニ就テ市会ノ承認ヲ求メ，此点異議ナク承認。予，挨拶ヲ陳ベ，松井議員ノ代表的謝辞アリ，十一時半閉会ス。昭和十四年六月十二日市会満場一致ノ推挙ニヨリテ，就任以来今回衆議院議員立候補ノ為メ辞職ニ至ルマデ，二年十カ月大過ナク任務ヲ果シタルハ欣幸トスル所ナリ」。なお，臨時市長代理には助役の藤井折平が就任しています（昭和17年4月1日～8月6日）。

4月5日，東京の「翼協」本部でも亀太郎の推薦が決まりました。宇和島警

16) 岡本馬太郎は，愛媛県農会長で，翼賛会愛媛県支部の常務委員，堀本宜実は北条町長，県会議員で翼賛会愛媛県支部の庶務部長，山中義貞は伊予鉄道取締役で翼賛会愛媛県支部の常務委員，野本吉兵衛は八幡浜市長，予州銀行監査役で，八幡浜市翼賛壮年団長，毛山森太郎は元立間尻村長，県会議員，南予乾蘭販売利用組合長で，北宇和郡翼賛壮年団顧問である（『愛媛県議会史 第4巻』1316～1317頁，『愛媛県史 資料編 近代4』361頁）。

察署より連絡を受けています。内務省・警察主導であることが分かります。「夕方、県庁及び宇和島警察署より通知アリテ、東京ニ於ケル翼賛政治体制協議会本部ノ衆議院議員候補者詮衡委員会ニテ、予、正式推薦ノ決定ヲ見タリトノコトナリ。則チ立候補ヲ決意シ、直チニ清家庫蔵君ヲ中村ニ招キテ、選挙事務ヲ採ラシムルコト、シ、夜、川野治享君ヲ丸穂ノ宅ニ訪ヒテ、選挙事務長タルノ承諾ヲ得タリ」。なお、記事中、川野治享は市会議員です。

4月4日に総選挙の公示がなされています。愛媛では、第1区で武智勇記（翼協推薦、再、旧民政）、岡本馬太郎（翼協推薦、新、旧政友）、堀本宜実（翼協推薦、新、旧民政）、米田吉盛（非推薦、新、中立）、栗山吉清（非推薦、新、旧養正）の5人が、第2区で山中義貞（翼協推薦、新、中立）、河上哲太（翼協推薦、再、旧政友）、村瀬武男（翼協推薦、再、旧民政）、馬越晃（非推薦、新、旧民政）、渡邊鬼子松（東方会、新）、近藤敏夫（非推薦、新、旧政友）、安藤音三郎（非推薦、新、旧民政）、林田哲雄（非推薦、新、旧社大党）、馬越旺輔（非推薦、新、旧民政）、竹田安次（非推薦、新、中立）の10人が、亀太郎の属する第3区では、野本吉兵衛（翼協推薦、新、中立）、毛山森太郎（翼協推薦、新、旧民政）、高島亀太郎（翼協推薦、再、旧政友）、薬師神岩太郎（非推薦、新、旧政友）、布利秋（非推薦、新、中立）、高橋英吉（非推薦、新、旧民政）の6名が立候補しました。推薦から排除された現職候補はいずれも立候補しませんでした。非推薦の旧政党人がかなり、立候補していることがわかります¹⁷⁾

以下、選挙活動の状況が日記に詳しい。紹介していきましょう。

4月6日、選挙の準備に当たります。「朝来、中村ニ行キテ、立候補ノ準備事務ニ当リ、供託ヲナシ、又県へ立候補届出ノ為メ清家君ヲ松山ニ派遣ス。夕方ニ宮卓君ノ病氣ヲ見舞ヒ、六時有権者ノ選挙戒告会ニ中央国民学校へ行キ、夜、在宅、来訪者ニ接ス」。

4月7日、選挙事務所を決め、準備に当たっています。「多ク中村ニアリ、追

17) 『愛媛県議会史 第4巻』1315頁。

手通融通座前吉良氏宅（広小路二十一番地）ヲ選挙事務所ニ借受ケ，本日臨時電報ノ取附ヲナス。八八八番及ビ八八九番ナリ。清家君松山ニアリテ，久松操氏ヲ推薦者トシテ供託及ビ届出ノ手續ヲ了シタレバ，夕方立候補者タル予ヨリ当地警察署ヘ事務長川野君ヲ選任届出ス。夜十時半，清家君有権者名簿等ヲ持チテ松山ヨリ帰り，報告ヲ聴ク」。

4月8日，松山の「翼協」支部に挨拶に行き，また，3区の推薦候補の打ち合わせ会を行い，地盤割りをしています。「午前六時二十五分北宇和島ヨリ乗車，十一時松山ヘ行き，伊予鉄ニテ太宰孫九氏ニ会ヒ，同氏及ビ来松ノ毛山森太郎君ト共ニ，大日本婦人会支部会館内ノ翼賛政治体制協議会支部（主任田中紺蔵君）及ビ支部長烏谷章氏宅ヘ挨拶ニ行き，午後一時二十分発ノ下り列車ニテ松山ヲ発シテ八幡浜ヘ出デ，三時半梅月ニ於ケル翼協候補者打合会ニ出席ス。太宰，酒本（静市），赤松（則義）ノ三委員，野本，毛山，予ノ三候補者，予ノ事務長川野君等会合ノ上，互ニ協調ヲ保チテ選挙運動ニ当リ，全員確実ニ当選ヲ期スルコトヲ申合セ，地盤ノ地区別ヲナス。西宇和郡，八幡浜市ハ野本君，南北宇和郡，宇和島市ハ予ト毛山君，東宇和郡ハ大体野本君ナレドモ，他ノ二人モ進出ヲ許可スルコトニ諒解ヲ与フ。川野君ト共ニ卯之町経由，夜十時半帰宇シタリ」。

4月9日も選挙準備をしています。3区から非推薦で薬師神岩太郎（宇和島市会議員，県会議員，旧政友会），高橋英吉（弁護士，八幡浜市会議員，県会議員，旧民政），布利秋（北宇和郡吉野村出身，旅行家，中立）らも立候補して，選挙は激烈のようです。「昨日ヨリ選挙事務所ヲ開始シ，事務長川野君，書記清家君等常ニ在リ。十数名ノ労務者ヲ備ヘテ有権者宛ノ封筒ヲ書カシム。選挙区ハ，推薦候補者三人ノ外，薬師神岩太郎君，八幡浜ノ高橋英吉君モ自由立候補シテ，既ニ運動ニ着手シ，布利秋君モ近ク立候補ノ模様ニテ相当競争劇甚ノ状勢ナリ」。

4月10日，選挙広報の原稿書きです。「選挙事務所ニアリ，夜宅ニテ選挙公報ノ原稿ヲ起草シテ，十二時迄ニ清書シ了ル」。

4月11日、選挙広報の原稿を郵送し、又候補者戒告の会に出て、粛選の誓約をしています。「朝、選挙公報ノ原稿(大東亜戦争ノ完遂、国内経済体制ノ強化、物資増産、食料確保、中小商工業者転廃対策、国民保健及ビ教育施設等ノ政見ヲ載ス)ヲ県庁宛発送ス。……十時広小路保健所楼上ニ於ケル候補者戒告ノ会ニ出席ス。特高課長、選挙区内各警察署長、候補者、事務長全部会合ノ上、張札、演説回数、旅費額標準等ヲ申合セシ、粛選ノ誓約ヲナス。午后事務所ニアリ、夕方赤松勲君方ニテ同君及ビ桂作蔵君ノ来ルニ会ヒ、桂君モ赤松君ト同ジク、予ヲ援助スルコト、ナレリ」。記事中、赤松勲、桂作蔵は共に北宇和郡選出の県議(旧政友会)です。

4月12日から16日までは、大体選挙事務所にいて、演説会の日程や推薦状、挨拶状の印刷、発送など選挙の準備をしています。

4月17日から、本格的に演説会です。17日は南宇和郡城辺町、緑僧都村へ行き、演説しています。「本日ヨリ月末迄予定ノ日割ヲ以テ選挙区各地へ政見発表、政談演説会ニ出ヅルコト、シ、自動車ヲ備へ午前九時出発。赤松、桂ノ両県会議員、二宮卓市会議員、藤原卯多一君ノ応援弁士ト共ニ南宇和郡へ赴ク。午後一時深浦ノ青年会館ニテ演説シ、八時緑ノ国民学校及ビ城辺ノ国民学校ニテ同時ニ開会シ、弁士ヲ分チ、予ハ双方ニテ演説ス。一行ト共ニ城辺町松屋旅館ニ宿泊セリ」。

4月18日も南宇和郡西外海村で演説しますが、途中、空襲警報がなり、中止しています。「午前松屋ニアリ、南郡ノ選挙委員中岡、清水両君ニ会ヒ、西県会議員ノ来訪ニ接ス。本日ハ西外海村三ヵ所ノ筈ナルヲ以テ、十一時出立。御荘警察署ニ署長ヲ訪ヒテ後、福浦へ行き、同地青年会館ニテ午後二時ヨリ演説ス。聴衆ハ昼間ニ係ラズ数十名アリシガ、応援弁士ノ演説ヲ了リ、予ノ演説モ半バヲ過グル頃、四時半突然空襲警報ノサイレン鳴リ、規定ニヨリテ演説会ヲ中止シ、散会ス。警防団ハ直チニ配置ニ就キシガ、東京市空襲¹⁸⁾ヲ受ケタリトノ情

18) ドリットル陸軍中佐率いる米陸軍機16機が、東京、名古屋、神戸などを初空襲(注1参照)。

報アリ。夜モ警戒警報発令中ナルヲ以テ、燈火管制行ハレ、演説会ヲ開クヲ得ズ。六時城辺松屋ニ帰ル」。

4月19日は南宇和郡一本松村で演説しています。「朝、藤原君帰宇シ、杉内清君来ル。赤松君ト二宮君ハ西外海村久吉ノ演説会ニ行キ、予ト桂、杉内両君トハ一本松ヘ行キテ、午后二時ヨリ同地国民学校ニテ演説ス。五時帰宿。柴田芳久君宇和島ヨリ応援ニ来ル」。記事中、杉内清は市議員です。

4月20日も南宇和郡西外海村、御荘町、内海村で演説しています。「午前二宮、杉内両君ハ、内海村柏ヘ演説ニ行キ、予ト赤松、桂、柴田ノ四人ハ十時出発、西外海村ヘ行キ、十一時中浦信用組合ニテ、午后一時船越青年会館ニテ演説シ、二時半迄ニ御荘町平城ヘ帰りテ、三時ヨリ同地公会堂ニ於テ、毛山候補ト共同演説ヲ開ク。毛山派ノ演説ヲ先ニセシメ、予ハ四時半ヨリ始メ六時閉会。本日警戒警報解除トナリタレバ、七時ヨリ内海村菊川ノ学校ヘ行キテ演説ス。城辺松屋ニ宿泊」。

4月21日は、北宇和郡御楨村、清満村、岩松町で演説し、夜11時宇和島に帰っています。強行スケジュールです。「午前十時城辺ヲ発シテ、一同北宇和郡畑地村ニ帰り、正午同村上畑地ノ国民学校ニテ少憩。村長赤松貞氏ニモ会フ。桂、二宮両君ヲ同地ノ演説会ニ残シテ、予ト赤松、柴田ノ三人ハ御楨村ヘ行ク。途中自動車ノ故障ニヨリ、一里斗リ徒歩シテ同村ニ達シ、三時ヨリ国民学校ニ於テ演説ヲナス。六時清満村岩渕ノ学校ニ於テ、八時岩松町ノ劇場ニ於テ夫々演説シ、弁士一同大畑旅館ニ集合シテ、休憩ノ上、十一時宇和島ニ帰りタリ」。

4月22日は東宇和郡横林村、中筋村、野村町で演説し、夜一時宇和島に帰っています。さらに強行スケジュールです。「午前選挙事務所ヘ行キ、十一時出発。愛治村ヨリ東宇和郡ニ入り、野村ヲ経テ坂石ヘ行キ、横林村高成ノ国民学校ニテ演説ス。同方面ノ委員ハ野村ノ須崎君ナリ。続テ六時中筋村ノ学校ニテ、八時野村町ノ劇場ニ於テ演説ス。野村ノ演説会ハ聴衆多数ナリ。旅館たづの屋ニ少憩ノ上、十時半出発。桂君ヲ近永ノ宅ヘ送りテ、夜半一時帰宅ス」。

4月23日は宇和島市の沖あいの九島(昭和9年宇和島市に合併)ヘ行キ、演

説し、後、宇和島に帰り、夜7時より融通座で政見発表演説会を開催しています。「午前事務所ニアリ。正午ヨリ高光ノ演説会ニ杉内、久留島両君ヲ行カシメ、予ト柴田君、藤原君ハ内港ヨリ船ニテ九島へ渡り、午后二時ヨリ百之浦ノ学校ニテ、四時ヨリ石応ノ学校ニテ演説ス。閉会后一同小舟ニテ馬越へ渡り、五時過事務所へ帰着シ、七時融通座ノ政見発表演説会ニ臨ム。正刻開会。早クモ聴衆満員トナル。柴田芳久、桂作蔵、予、久松操ノ弁士順序ニテ演説シ、各熱弁ヲ振ヒ、予ハ政見ヲ述ベタル後、派閥ヲ設ケズ、六万ノ全市民ヲ味方ト思フ旨ヲ強調シテ、満場ノ共鳴喝采ヲ得タリ。九時半閉会。事務所へ寄りテ打合ヲナシ、十一時帰宅ス」。

4月24日は、北宇和郡の好藤村（深田）、吉野生村（吉野）、松丸町（松丸）で演説しています。「演説会ハ、予等候補者本隊ノ外、別働隊ヲ津島海岸其他へ派遣シテ、言論戦ヲ拡大シツゝアリ。午前事務所へ行キ、午后好藤村へ行キテ、二時深田ノ国民学校ニテ演説シ、夜七時ヨリ松丸及ビ吉野ノ両所ニテ同時ニ開会ス。応援弁士ハ、赤松、桂、二宮ノ諸氏及ビ岡本景光氏等ニシテ、予ハ八時吉野ノ学校、九時半松丸ノ劇場ニテ演説シ、十一時松丸杉山旅館ノ休憩所ヲ出発、宇和島ニ帰レリ」。

4月25日も北宇和郡愛治村（清水）、泉村（小倉、出目）で演説です。「事務所へ行キテ、十一時出発。午后二時愛治村清水ノ産業組合楼上ニテ演説会ヲ開キ、泉村へ出デゝ、六時半小倉ノ劇場、七時出目ノ国民学校ニテ開会。予ト赤松、桂両県議ト三人ノミノコンビニテ両所ヲ交替演説シ、聴衆ノ気受良シ。十一時帰宇ス」。

4月26日は、北宇和郡の日吉村（鍵山、父野川、上大野）、三島村（小松）の4ヵ所で演説です。「午前事務所へ行キ、十一時二宮君ト共ニ出発。近永ニテ桂君ヲ加ヘ、共ニ日吉村へ行キテ午後一時ヨリ鍵山ノ公会堂、三時半父野川国民学校ニテ演説ス。五時三島村へ帰り、直チニ小松ノ信用金庫ニテ、八時下大野ノ劇場ニテ演説会ヲ開ク。下大野ハ特ニ会衆多カリキ。十一時帰宇ス」。

4月27日は、北宇和郡奥南村（奥浦）、喜佐方村、吉田町で演説しています。

「事務所へ行き、正午ヨリ赤松、二宮、柴田ノ諸君ト共ニ出発。午後三時奥南村奥浦ノ国民学校、七時喜佐方村国民学校ノ演説会ニ臨ミテ後、八時吉田町劇場ニ於ケル演説会ニ出席、政見ヲ発表ス。九時半閉会。同町松月ニテ夕食ヲナシ、十一時家ニ帰レリ」。

4月28日は北宇和郡成妙村、三間村、旭村(近永)、そして宇和島市で演説し、強行スケジュールです。また、別働隊も各地で演説しています。「予ノ外、毛山、野本、薬師神、高橋、布ノ六候補者共言論戦ニカヲ入レ、各地演説会多シ。予ガ事務所ノミニテモ、本日ハ桂、柴田ノ一隊ハ東宇和郡土居、魚成及ビ溪筋ノ三村、藤原、末光等ノ別働隊ハ北灘ノ三ヵ所ニテ演説会ヲ開キ、予等本隊ハ正午事務所ヲ発シテ、午後二時成妙村ノ学校、三時三間村宮野下ノ劇場ニテ演説シ、夜ハ弁士ヲ二分シテ、赤松君ト予ハ七時ヨリ近永ノ劇場ニ於テ演説会ヲ開キ、一方宇和島和霊神社参籠所ニ於テ、久松、二宮両氏ヲ主トシテ開催シ、予自動車ニテ近永ヨリ之ニ向ヒ、九時参加シテ宇和島二回目ノ演説ヲナス。十時閉会ノ後、事務所へ帰りテ牧野君等ト協議シ、野村ノ桂君及ビ近永ノ赤松君ヘモ電話シテ打合ノ結果、急遽居村へ帰りテ最後ノ配置ニ附カシム。赤松君ハ明日畑地ニテ演説スル筈ナリ」。

4月29日は投票の前日です。東宇和郡高川村、貝吹村、石城村、宇和町(卯之町)で演説しています。「午前大ニ事務所ヲ督励シテ、九時半久松、二宮両氏ト共ニ出発。近永ニテ桂君ニ会シ、久松氏ハ目黒ノ演説会ニ行ク。予ト二宮君トハ東宇和郡高川村へ向ヒ、午後一時同地国民学校ニテ演説ヲナス。更ニ貝吹村へ廻リテ県道ヲ離レ坂路ヲ徒歩シテ登ルコト十数丁、山ノ中腹ニアル国民学校ニテ演説シ、比処ニテ先発ノ柴田君、藤原君ニ合シ、共ニ自動車ニテ野村へ出デ少憩ノ上、夕方宇和町ニ着シ、富士の家旅館ニテ夕食ス。今夜ハ石城村山田薬師ノ寺院及ビ卯之町劇場ノ二ヵ所ニテ同時刻ニ開会シ、弁士ハ双方ヲ懸持チ。予ハ先ヅ石城ニ於テ演説ノ上、九時卯之町栄座ニテ政見ヲ発表ス。十時過盛会裏ニ閉会。十一時半宇和島ニ帰り、事務所へ立寄りテ、夜半家ニ帰レリ」。

4月30日は投票日です。「第二十一回衆議院議員選挙ヲ行フ日ナリ。予ハ宇

和島市ノ第二投票場タル中央国民学校ニテ投票ヲナシ、十時半ヨリ終日事務所ニアリ。各地ノ投票情報ヲ聴クニ、大体二割ノ棄権率ナリ。十時過帰宅ス」。

5月1日が市部の開票日です。宇和島市では、亀太郎の市での得票は3026票で薬師神岩太郎（非推薦、旧政友）に次いで第2位、予想より多かったようです。「市部開票ノ日ナリ。……宇和島市開票ノ状況ハ、刻々事務所へ報告達シタルガ、午後三時半全部判明シ、予三〇二六票、薬師神君三〇四七票、毛山君一〇三五票、布君一〇〇二票、野本君五二票、高橋君七二票、無効一四三票ニシテ、市部ノ予ノ得票ハ世人ノ予想ヨリ稍多シ」。

5月2日が郡部の開票日です。北宇和郡の鬼北地方で布利秋（非推薦、中立）に地盤を荒らされ、一時不安に襲われ、苦戦でしたが、南宇和郡及び北宇和郡の岩松町で健闘し、3位ですが、当選しました。「郡部開票ノ日ナリ。……開票ハ宇和支庁ヲ始メ、南宇和郡、東宇和郡、西宇和郡ノ各団体事務所ニテ一斉ニ開始サレ、各町村別ノ得票数ハ刻々事務所へ報告到着シタルガ、全体ヲ通ジテ布君ノ進出意外ニ著シク、殊ニ其出身地タル吉野生村等鬼北地方面ニ於テ、予ノ地盤ヲ荒サル、コト多大ナリシ為メ、午後二時頃ハ一時形勢ヲ氣遣ハレシモ、南宇和郡及ビ津島郷ニ於テ、予ノ得点相当ニ上リ、薬師神君亦東西宇和郡ノ得点予想ヨリ少ナカリシ等ノ関係ニテ、結局午後四時ニ至リテ全部ノ点数判明シ、野本君一二九五六票、毛山君一二一〇一票、予九三一四票ヲ以テ翼協推薦ノ三候補当選ス。次点ハ薬師神君八〇三〇票、布君七七八一票、高橋君六五〇三票ナリ。右ノ事情ニテ、予ノ得票ハ、予想ヨリ二千票少ナカリシモ、当選ノ榮ヲ得タルハ幸ニシテ感謝ニ堪ヘザル所ナリ。乃チ期セズシテ事務所ニ萬歳ノ声起リ、新聞班ノ撮影、当選ノ感想談等ヲナス。尚事務所ニアリテ各方ノ祝辞ヲ受ケ、幹部諸氏ト共ニ選挙界ノ情勢、最近ノ変遷ヲ談ジ合ヒテ、九時頃家ニ帰ル」。

愛媛県の選挙結果は、第1区（3人）では5人が立候補し、推薦候補の武智勇記（再、旧民政）、岡本馬太郎（新、旧政友）と非推薦の米田吉盛（新、中立）の3人が当選し、推薦の堀本宜実（新、旧民政）と非推薦の栗山吉清（新、旧養正）が落選しました。第2区（3人）では、10人が立候補し、乱戦であった

が、推薦の山中義貞(新, 中立), 河上哲太(再, 旧政友), 村瀬武男(再, 旧民政)の3人がいずれも当選し, 非推薦の馬越晃(新, 旧民政), 渡辺鬼子松(東方会, 新), 近藤敏夫(新, 旧政友), 安藤音三郎(新, 旧民政), 林田哲雄(新, 旧社会大衆党), 馬越旺輔(新, 旧民政), 竹田安次(新, 中立)が落選しました。第3区(3人)では, 日記のように, 6人が立候補し, 推薦の野本吉兵衛(新, 中立), 毛山森太郎(新, 旧民政), 高島亀太郎(再, 旧政友)の3人が当選し, 非推薦の薬師神岩太郎(新, 旧政友), 布利秋(新, 中立), 高橋英吉(新, 旧民政)が落選しました。このように, 愛媛では定員9名中8名まで「翼協」推薦の候補が当選し, 非推薦の当選者は米田吉盛(内子町出身, 横浜専門学校校長, 理事長)1人でした¹⁹⁾

全国では, 当選466名のうち, 翼賛政治体制協議会推薦候補は381名, 非推薦候補85名で, 推薦候補の当選率は82%であり, 東条の思惑通り, 全く翼賛議会となりました。

再選を果たした亀太郎は, 5月3日以降, 墓前への当選の報告や各方面へのお礼回り等をしています。「法円寺ニ展墓シテ, 父祖ノ墓前ニ住職ノ読経ヲナシ, 当選ヲ報告ス。……六時光国寺山村氏ノ墓所ヘ詣リテ, 第二回ノ代議士当選ヲ報告シタリ」(5月4日), 「畠田知事, 翼協支部, 翼賛会支部, 烏谷氏邸及ビ伊予鉄道太宰氏ヘ挨拶ニ廻リテ, 五時過帰宿」(5月6日), 「五時ヨリやまと屋別館ニ於テ催サル、翼協支部ノ新代議士招待会ニ出席ス。烏谷氏ノ挨拶アリテ, 予, 謝辞ヲ述べ, 九時旅館城戸屋ニ帰ル」(5月9日)等々。

東条内閣は, 翼賛選挙で所期の目的を達成し, さらに, 翼賛議会を確かなものとするために, 政府の肝入りで翼賛政治結集準備会を組織し, それを母体に, 5月20日「翼賛政治会」を結成していきます。それに, 亀太郎も末端でかかわっています。

5月17日, 亀太郎は, 翼賛政治会結成のために, その発起人の1人として上

19) 『愛媛県議会史 第4巻』1315頁。

京します。日記に「中央ニ於ケル翼賛政治会ノ創立總會ニ發起人トシテ招請ヲ受クルコト判リタルヲ以テ、明朝上京スルコト、シ、用意ヲナス」とあります。

5月19日に、翼賛議員同盟の總會が行われ、同盟を解消し、翼賛政治会に合流することを決めています。「午前七時三十分東京ニ着シ、呉服橋龍名館ニ入ル。……十時岡田忠彦氏ヲ永田町ノ邸ニ訪ヒ、選挙当時ノ厚意ヲ謝シ、中央ノ推薦決定事情等ヲ聴ク。予ニ関シテハ最初ヨリ異論無カリシ様子ナリ。午后一時芝新桜田町ノ翼賛議員同盟本部ニ於ケル其總會ニ出席ス。来会者ハ幹部ヲ始メ再選ノ議員多数ニシテ、翼政ニ合スル為メ発展的解消スルコトヲ決議シ、記念撮影ノ後、陛下萬歳ヲ三唱シテ別ル。六時山王下錦水ニ於ケル岡田氏主催、旧久原派議員招待会ニ行ク。選挙前星ヶ岡茶寮ノ会合当時ニ比シ、三分ノ二程度ニ議員数減ジ居ルモ、今回ハ新人ノ進出著シク、一般前議員ノ約半数当選ニ比シ、比較的好成績ノ方ナリ。懇談シテ八時過帰宿ス」。

5月20日に、東条首相を迎え、翼賛政治会の創立總會が大東亜会館でなされました。推薦議員は勿論、非推薦議員も加入した政治結社で、阿部信行が総裁でした。²⁰⁾「午前十時半ヨリ大東亜会館ニ於ケル翼賛政治会ノ創立總會ニ出席シ、新旧代議士多数ト共ニ待ツコト少時、十一時開会ス。改選後ノ翼賛議會ヲ完成シ、挙国一致体制ヲ強化スル為メ、政治結社トシテ総裁ニ阿部信行大將ヲ推スコトニ決シ、会則宣言、綱領等ヲ決議シ、東條首相ノ祝辞アリ。緊張裏ニ正午閉会。四階大広間ニテ昼餐ノ饗アリテ散会ス」。

5月25日、翼賛選挙後初めての、第80回臨時帝国議會(5月27日開会、28日閉会)が召集されました。亀太郎は25日の朝、明治神宮、靖国神社を参拝などし、議會に登院しています。また、この日は議長、副議長選挙が行われています。「臨時議會招集ノ日ナリ。朝六時、野本代議士及ビ同宿ノ森谷代議士ト共ニ明治神宮ヘ行き、新代議士参拝ノ会ニ加ハリテ、六時半ヨリ列ヲナシテ神宮ニ参拝ス。次デー同バスニ乗りテ靖国神社ニ参拝シ、社殿ニテ修祓ヲ受ク。更

20)『翼賛国民運動史 上巻』457頁。刑事訴追者8名を除く458名の衆議院議員全員が加入。事実上一党独裁体制が確立した。

ニ宮城二重橋前ニテ陛下ノ萬歳ヲ三唱シ、一旦帰宿。朝食ノ上九時半、野本君ト共ニ衆議院に登院ス。四国議員ノ控室ハ三階第十八号控室ナリ。十時開議。議席ハ殆満員ナリ。先ヅ、正副両議長ノ選挙ヲ行ヒ、議長ニ岡田忠彦氏、副議長ニ内ヶ崎作三郎氏当選ス。正午退出。毛山君来訪。午后五時半、大東亜会館ニ於ケル東京商工会議所主催、会議所関係議員ノ招待会ニ出席ス。藤山会頭ノ挨拶アリ。七時過散会。銀座ヲ散歩シテ九時帰宿ス」。

5月26日、本会議があり、各議員の部属を決めています。「朝、佐々木長治氏ヲ訪問シテ、十時登院ス。部属ヲ定メ、帝国議会成立ス。正午議員食堂ニ於テ議長ノ午餐会アリ。午后一時ヨリ予算委員室ニ於テ議案(船舶建造ノ案)ニ対スル政府ノ説明ヲ聴ク。三時退出シ、五時佐渡君来訪。共ニ九段新美好ヘ行キテ夕食ヲ共ニシ、其間ニ木挽町小松の岡田議長当選祝賀ノ会ニモ出席ス。十一時新美好ヨリ宿ニ帰レリ」。

5月27日に、開院式があり、また本会議が開かれています。本会議で、勅語への奉答文の決議、全院委員長選挙、常任委員選挙等があり、亀太郎は予算委員となっています。その後、東条首相の景気のよい演説²¹⁾等を聴いています。夜は旧政友派の懇親会に出席しています。「十時過登院シ、陛下ノ臨幸ヲ迎ヘテ、十一時貴族院ニ於ケル開院式ニ参列ス。陛下親臨勅語ヲ賜ヒ、式後衆議院ニテ開議、奉答文ヲ起草シ決議ス。其他屢休憩、又開議シテ全院委員長ヲ選挙シ、又常任委員ノ選挙ヲ行ヒ、予ハ予算委員トナル。午后四時五十分、更ニ開議シ賀陽宮殿下台臨アリ。東條首相ヲ始メ、東郷外相、賀屋蔵相ノ施政演説、東條陸相、島田海相ノ戦況報告アリテ、感謝決議ヲナシ、又提案ニ対スル逋相等ノ説明アリテ、委員ニ付託シ、八時十分閉会。夫レヨリ虎之門晚翠軒ニ於ケル丁丑会ノ会合ニ出席ス。昭和十二年ノ新議員会トシテ前議会迄ハ、旧政友派三十一名ノ会員アリシガ、今回ノ改選ニ多ク落選シ、再選シテ会スルモノ十名トナ

21) 東条は「大東亜戦争ノ勃発以来未ダ半歳ニ満タザル短期間ニ於キマシテ、皇軍ハ敵兵力ヲ撃摧シ、大東亜ニ於ケル要域ハ悉ク皇軍ノ専有スル所トナリ、米英ノ海上部隊ハ脆クモ太平洋及印度洋ヨリ駆逐セラレ……世界ニ類例ナキ連戦連勝」などと演説している(『第八十回帝国議会衆議院議事速記録』5月27日)。

レリ。晚餐ヲ共ニシテ十時帰宿ス」。

5月28日は予算委員会、本会議に出席しています。「午前九時登院。予算委員会ニ出席ス。十一時原案ヲ可決シ、休憩中石原君ト議員食堂ニテ話ス。午後一時本会議ヲ開キ、予算案其他ノ諸案ヲ議了シ、貴族院ヘ回付ス。二時ヨリ予算委員室ニテ情報部ノ平出大佐其他ノ軍事談アリ、之ヲ聴キテ四時過退出シ、宿ニ祖上君等来訪ス。夜、銀座散策」。

5月29日が閉院式です。式後、拝謁、首相官邸での慰労会等があり、出席しています。「午前十時半登院。十一時貴族院ニテ行ハル、閉院式ニ参列ス。式後議員一同ト共ニバスニテ宮城ヘ行キ、坂下門ヨリ参入。正午拝謁ヲ賜ハリ、御菓子、御蓑ヲ頂戴シテ退出シ、直チニ首相官邸ニ於ケル慰労招待会ニ出席ス」。後、亀太郎は山下亀三郎を訪い、夜は佐々木長治（貴族院議員）主催の県選出代議士招待会に出席しています。「四時半高輪南町山下亀三郎氏邸ヲ訪ヒテ、微恙静養中ノ山下氏ニ会ヒ、三十分余リ話シテ辞ス。六時赤坂小春ニ於ケル佐々木長治氏主催愛媛県選出代議士招待会ニ出席シ、砂田氏モ来リテ南洋談アリ」。

5月31日、亀太郎は帰国の途につき、6月1日帰宇しています。

6月9日、亀太郎は北条ヘ行キ、9名の代議士ならびに烏谷章・関谷清らと翼賛政治会の将来のことについて話しています。内容は不明ですが、大政翼賛会と翼賛政治会の間で何か齟齬があったものと思われます。「午前六時二十五分ノ汽車ニテ出発シ、八幡經由北條マデ行キテ下車シ、鹿島ニ渡リ、豫テノ打合せニヨリ県下選出ノ代議士ト会合ス。東京ヨリ河上、武智、米田ノ諸氏モ来リテ九人全部揃ヒ、午後松山ヨリ烏谷氏、関屋氏等数氏ノ来賓ヲ迎ヘテ食事ヲ共ニシ、翼賛政治会ノ将来ニ就テ隔意ナキ意見ヲ聴ク。半日ノ清遊ノ後、予等ハ八時北条発ノ列車ニテ辞シ、毛山君ト共ニ松山ヘ帰リテ、城戸屋ニ一泊ス」。

6月11日以降宇和島に居ますが、訪問客との応対や友人の病氣見舞い、葬儀に行ったり、碁をしたり、比較的暇です。また、久しぶりに教会に行ったりもしています。ただ、この6月以降、戦局は日本軍に不利に転換します。6月5～7日のミッドウエー海戦で大敗北します。しかし、その旨の日記記事はなく、

国会議員にも知らされていないようです。

7月もわりと暇です。碁をしたり、海水浴に行ったりしています。

8月5日から7日まで、翼賛政治会政務調査会の鉄道委員として、北九州方面を視察に行っています。5日は関門トンネルの工事現場や日本製鉄の八幡製鉄所を、6日は博多港を、7日は長崎港や三菱造船所等を見学し、8日に帰宇しています。

8月6日の宇和島市会で、市長選挙が行われ、亀太郎の後任の第9代宇和島市長に上田宗一（医師）が選出されています。9日に上田市長が亀太郎を訪問し、市政の協力を依頼しています。「六日ノ市会ニテ宇和島市長ニ就任ノ上田宗一氏来訪。今後ノ市政ニ就テ協力ヲ望マル。其他久松操氏、島原市議等二、三ノ訪客アリ」。また、助役には、藤井折平（助役で、臨時市長代理を勤めていた）が退任し、宮田信隆（庶務課長）が就任しています。

8月もわりと暇です。碁をしたり、読書したり、葬儀に行ったりしています。

8月～9月のガダルカナル島を巡って死闘が繰り返されていますが、その記事は一切ありません。これも国会議員にも知らされていないようです。

9月19日から23日にかけて、衆議院議員の傷病将士慰問使として（第十四班）、四国の代議士諸氏と共に四国各地の陸軍病院の慰問活動をしています。19日には香川県善通寺、丸亀に行き、20日には徳島市、高知市に行き、23日には松山陸軍病院、道後の善通寺分院を訪れ、慰問しています。

10月20日以降、11月末まで、八幡浜・卯之町間の鉄道促進活動に取り組んでいます。10月20日に宇和島市で八幡浜・卯之町間の鉄道建設促進運動協議会を開き、再び運動を盛り上げることを決めています。「午前十一時市役所ニ於ケル鉄道委員等ノ会合ニ出席シテ、上田市長其他ト打合ノ上、午後一時議事堂ニ於テ開会ノ八幡浜卯之町間鉄道運動ノ協議会ニ列ス。沿線ノ町村長等多数参集シ、上田、野本ノ両市々長、予ト毛山ノ両代議士、薬師神、佐々木、桂ノ諸県議ト共ニ此区間開通速成運動ニ就テ協議ノ結果、近日県及ビ鉄道当局ヘ対シ積極的ニ陳情要望スルコトニ決定ス。三時閉会。五時其会ノ夕餐会ヲ城東館ニ催

シ、後、杉内君ト共ニ老松へ行キタリ」。

そして、10月23日、上松し、知事に協力方を陳情しています。「国鉄開通促進運動ニテ、関係地方有志ト共ニ県庁ヲ訪フコト、ナリ、予ハ午前六時二十五分ノ汽車ニテ出発、松山へ行ク。……午後一時三十分知事官房ニテ上松ノ有志一行ト会ス。上田、野本両市々長、佐々木、薬師神、宇都宮ノ諸県議、各村長等一同十数名ニテ、福本知事ニ面会シテ、八幡浜、卯之町間鉄道開通ニ対スル県ノ協力方ヲ要望シ、知事モ此際積極的援助ノ意向ヲ示シ、主務官庁ヘノ運動方法ニ就キ打合シテ、三時会見ヲ了リ……五時明治楼ニ於ケル太宰氏主催ノ鉄道運動ノ一行招待会ニ出席ス。杉内君ト琴と井ヘモ寄りテ十時帰宿」。

なお、11月4日のことですが、亀太郎は市長退職に伴う退職金4000円を受領しましたが、それに対し、1000円を付けて、5000円を市に寄付しています。律儀な性格が伺われます。日記に「午前市収入役、大塚周蔵君来訪。予ガ市長在職三年間ノ功劳ニ対シ、先般ノ市会ノ決議ニヨル退職慰労金四千元也ノ贈呈ヲ受ク。依テ直チニ市役所へ行キ、正午上田市長ト会見ノ上謝意ヲ表スルト共ニ、改メテ金五千元也ヲ市ヘ寄附シ、公会堂建築資金トシテ採納積立テラレンコトヲ申出デ、現金ヲ渡ス。公会堂建築ハ予ガ志望ニシテ、在任中計画セシモ、時局ノ関係上実現ニ至ラザリシヲ以テ、其建設ノ一助タラシメントスルモノナリ」とあります。

11月9日～10日は、上田宇和島市長や毛山代議士、また県会議員、市会議員等とともに、広島鉄道局ならびに山口工事事務所を訪れ、陳情しています。9日「広島鉄道局へ行キテ、午前十時鉄道局長ニ面会シ、八幡浜、卯之町間運転開始促進ニ関シテ地方事情ヲ陳述、要望ス。当局トシテモ固ヨリ其方針ナレドモ、資材関係困難ノタメ確實ノ見込立タザル旨説明アリ。尚今後ノ努力方ヲ要求シテ、十一時退出。直チニ駅ヘ出デ十一時四十九分ノ列車ニテ西下、山口ヘ向フ。小郡ニテバスニ乗替ヘ午後四時半山口ニ着シ、鉄道局山口分室ヲ訪フ。今回ノ行政簡素化ニヨリ従来ノ建設系統ノ工事々務所ハ鉄道局ノ施設部トナリシモ、技術関係ノ事務ハ尚山口ニアルヲ以テ、市川技師等ニ会ヒテ、笠置トン

ネル等沿線工事進捗ノ実情ヲ聴取シ、促進方ヲ要望ノ上、十八時五十分ノ列車ニテ山口ヲ辞ス。小郡乗替ノ上、夜十一時半広島ニ帰り、再ビ蔵内旅館ニ入ル」。10日「朝、旅館ニテ一行ト打合ノ上、新ニ八幡浜商工会議所ノ酒本会頭、宇和島会議所ノ久都副会頭、毛山立間村長モ加ハリ、上田市長、予等一同更ニ広島鉄道局ヲ訪フ。本日ハ局長、施設部長共不在ノ為メ、元山口ノ工事課長タリシ萩野鉄道技師ニ会ヒテ、地方ノ熱望ヲ陳べ、午前中ニ陳情ヲ了ル」。

さらに、鉄道促進運動のため上京します。11月28日、上田宇和島市長らと共に鉄道省を訪れ、陳情しています。「午前八時半、上田、野本、宇都宮ノ諸氏及ビ佐々木饒君来訪。九時共ニ鉄道省ヘ行キ、貴族院議員佐々木長治氏モ合シ、一同ニテ省内ノ各要路当局ヲ歴訪ス。都合良ク業務局長、施設局長、八田鉄道大臣、長崎次官ニ順次面会シテ、鉄道開通促進方ヲ陳情シ……」。11月29日も午前中鉄道の陳情依頼をし、夜は伊達侯爵主催の招待会に出ています。「十時ヨリ上田市長ヲ伊勢屋ニ訪ヒ、野本市長、佐々木、宇都宮両県会議員来リテ、共ニ麻布霞町ニ河上哲太氏ヲ訪問シ、鉄道促進方ニ尽力ヲ依頼ス。……五時半芝愛宕山ノ嵯峨野ニ於ケル伊達侯爵主催ノ上田市長等一行招待会ニ出席ス。主人側ハ伊達宗彰侯、武藤理事、中溝参事、山内執事ニシテ、来賓ハ旧吉田藩主ノ伊達子、上田、野本、佐々木長治ノ諸氏ナリ。一同歓待ヲ受ケ、木挽町三橋ヘ二次会ニ案内セラレナドシテ、十時過漸ク帰宿ス」。11月30日は企画院を訪れ、陳情し、夜は南予同郷会の招待会に出席しています。「午前十時上田、野本、宇都宮ノ諸氏来訪。共ニ企画院ヘ行キテ次長ニ会ヒ、……午前一時一同更ニ企画院ヘ行キ、交通関係所管ノ第五部柴田少将ニ会ヒテ地方ノ鉄道事情ヲ陳情ス。之レニテ今回ノ鉄道運動ヲ了リ、……五時過丸之内中央亭に於ケル南予同郷会主催ノ上田市長等招待会ニ出席ス。予、佐々木長治氏其他モ陪賓トシテ各々地方情況ノ談話ヲナス。八時散会帰宿シタリ」。

12月1日、亀太郎は帰国の途につき、4日宇和島に帰っています。

12月7日には、八幡浜において、大政翼賛会・翼賛政治会主催の講演会を開催しています。「大東亜戦争一周記念ノ翼賛会、翼政会主催講演会ニ臨ム為メ、

十五時十一分発ノ汽車ニテ八幡浜へ行き、夕方同地着ノ千代田旅館ニ入りテ、東京其他ヨリ先着ノ一行ニ会ヒ、六時三十分ヨリ開催ノ講演会ニ劇場ニ出席ス。聴衆満堂、関屋少将、前司法次官皆川治広氏、毛山代議士、吉澤海軍少将ノ演説アリテ、予ノ首唱ニテ一同陛下ノ萬歳ヲ三唱シ、十一時閉会ヲ告グ」。

12月8日は、開戦1周年です。松山市の護国神社での記念式及び国民大会に出席しています。「午前八時過八幡浜ヲ発シ、一行ト共ニ汽車ニテ松山へ行き、予ハ正午頃城戸屋旅館ニ入ル。午後一時三十分護国神社ニテ挙行ノ大東亜戦争一周記念式及ビ国民大会ニ臨ミ、来賓席ニ就ク。知事其他ノ式辞アリテ三時閉会シ、後、社務所ニテ少憩ノ上、宿ニ帰り、夜、薬師神君ト碁ヲ打チタリ」。

12月9日は、知事・代議士等による時局懇願会に出席しています。「午後一時ヨリ県庁高等官食堂ニ於ケル時局懇談会ニ出席ス。河上、武智、米田ノ諸氏東京ヨリ帰レルヲ始メ、県選出ノ代議士九名全部会シ、県ヨリハ福本知事、高村警察部長、其他ノ出席アリテ、五時過迄刻下ノ情勢ト諸政策ニ対スル意見ヲ交換シ、六時一同梅廻家ノ晚餐会ニ行ク。烏谷中将等、翼賛会関係ノ諸氏ヲモ招待シ、懇談ヲ重ネタリ」。

12月19日、第81回帝国議会(12月26日開会、18年3月25日閉会)に出席のため、上京の途につき、21日東京に到着しています。そして、この日は鉄道省を訪れ、鉄道開通促進の陳情しています。「午前八時東京ニ着シ、呉服橋龍名館ニ入ル。……午後一時、単独鉄道省へ行キテ長崎次官、小林施設局長、坂本業務局長、平山総務局長ニ順次面会シテ、八幡浜・卯之町間開通促進ニ就キ要望ヲ重ネタルガ、十八年度鉄道予算ニ計上ハ確實ナルガ如キモ、尚、大蔵省査定及ビ物動関係ノ難関ヲ残セリ」。

12月23日は、翼政会の議員総会に出席しています。「午後一時半、大広間ニ於ケル翼政會議員総会ニ出席シ、阿部総裁ヨリ議会对策等ノ協議アリ。時局重大ノ場合、積極的ニ政府ト協力且鞭撻スルコトニ一決ス」。

12月24日が、第81帝国議会の召集日です。「議会召集日ナルニ就キ、午前十時衆議院ニ登院シ、第十八控室ニ入ル。程ナク開議。岡田議長開議ヲ宣シ、部

属ヲ定メテ議会成立ス。予ノ議席ハ二一七番トナレリ。十一時退出。帟之門ノ海軍省第四分室ニ近日ニューギニヤノ司政長官トシテ赴任スル浜田吉治郎海軍中尉ヲ訪問ス。午後一時過再ビ登院シテ、予算委員室ニ於ケル大蔵省当面ノ予算説明ヲ聴キ、三時帰宿。五時ヨリ県選出代議士ト共ニ東予有志ノ宴会ニ招カレテ、浅草弁天山ノ寿賀野へ行キ、帰途岡本馬太郎君ノ宿所神田淡路町佐々喜旅館へ寄りテ十時帰りタリ」。

12月25日は、鎌倉にいる華宵と会い昼食を共にし、夜は新橋へ行き、文楽座を見物しています。

12月26日が、議会の開会日で、開院式、本会議がありました。本会議では、勅語への奉答文の決議がありました。「午前十時登院。議員一同ト共ニ陛下ノ行幸ヲ奉迎シテ、十一時貴族院ニ於ケル帝国議会開院式ニ参列ス。優渥ナル勅語ヲ賜フ。式後奉送ノ後、衆議院ニテ勅語奉答文ヲ決議シ、散会」、その後、亀太郎は鉄道促進の陳情し、夜は映画を見に行っています。「午後貴族院議員佐々木長治氏及ビ野本、毛山両代議士ト共ニ鉄道促進ノ件ニテ、大蔵省ニ銀行局管理課長伊達侯爵ヲ訪問シ、又鉄道省ノ各局課へ行ク。予ハ三時過ヨリ夕方迄三越其他ヲ買物ニ歩キ、夜、銀座劇場ニテ映画ハワイ及マレー沖海戦ヲ観タリ」。

12月27日は、議会に出席し、午前全院委員長、常任委員の選挙があり、亀太郎は建議委員、またその理事になっています。また、午後の本会議があり、陸海軍大臣による戦況報告²²⁾を聞く等しています。「十時登院。全院委員長其他常設委員ノ選挙アリ、予ハ建議委員トナル。休憩後委員会ヲ開キテ、漢那謙和君

22) 東条陸軍大臣の戦況報告は、過去1年間を振り返り、前半は快進撃をし、戦果をあげたが、後半は米軍が本格的に反撃に出て、「決戦の様相」を呈していること、ガダルカナル島における将兵の艱難、アリーシャン方面における将兵の辛苦にも触れているが、ガダルカナルの敗北、撤退には一切述べていない。嶋田繁太郎海軍大臣の戦況報告は、過去1年間で、海軍は敵の戦艦11隻、航空母艦11隻、巡洋艦46隻、潜水艦93隻等110万トン撃沈し、それは米・英・蘭の総トン数の3割8分にあたること、また飛行機は3853機も撃墜・撃破したなどと、「大戦果」を誇る報告に終始し、他方日本海軍の被害は、戦艦1隻、航空母艦3隻、巡洋艦4隻、潜水艦9隻等20万トンの被害、また、飛行機の被害は568機にすぎないなどと述べ、敗戦の状況をひた隠しに隠している(『第八十一回帝国議会衆議院議事速記録』昭和17年12月27日)。国会議員にも正確な戦況は知らせていなかったようである。

ヲ委員長トシ、予ハ理事トナレリ。午後二時本会議再開。東條陸軍大臣、島田海軍大臣ノ戦況報告、之ニ対スル衆議院ノ感謝決議、二十五年勤続議員河上哲太氏等ノ表彰アリテ、三時四十分散会シ、明年一月二十日迄休会トナレリ」。そして、その夜、帰国の途についています。

IV. 昭和 18 年

昭和18年(1943)は、アジア太平洋戦争3年目の年です。戦局はますます日本軍に不利になっています。1月2日にニューギニアでブナの日本軍が玉碎し(死者7600名)、2月1日からはガダルカナル島からの撤退を開始します(2月7日撤退完了、戦死者・餓死者2万5000名)。また4月18日には、最前線視察にむかっていた山本五十六連合艦隊司令長官の乗った飛行機が暗号解読により米軍により撃墜され、国民に大きな衝撃を与えています。米軍はさらに攻勢に出て、5月12日には米軍はアリューシャン列島のアッツ島に上陸し、29日に日本軍守備隊2500名が全滅しました。また、米軍は6月以降、ソロモン群島、ニューギニアに上陸していきます。この敗退のなかで、9月30日の御前会議は「今後採るべき戦争指導大綱」を決定し、「絶対国防圏」をマリアナ・カロリン・西ニューギニアの線に後退させます。そのため、南太平洋の諸島は圏外となり、その日本軍は置き去りにされます(10月にソロモン諸島からの撤退)。その後も米軍の攻勢は続き、11月21日には中部太平洋のギルバード諸島に上陸し、25日に日本守備兵5400名が全滅するなどしています。

戦局の困難下に、東条は首相の権限強化を図ったり(18年3月、「戦時行政職権特例」の制定—重要軍需物資にかんして各省大臣に対する指示権を首相に付与する—)、また航空機増産をはかるために軍需省を設置し(11月)、東条みずからが軍需大臣を兼任するなどし、独裁体制を強化しています²³⁾ さらに東条は、戦争動員を拡大するために、台湾に徴兵制を実施することを決定したり(9

23) 由井「前掲論文」85頁。

月), 学生の徴兵猶予を停止したり(10月), 兵役を45歳まで延長したり(11月), 徴兵適用年齢を1歳引下げ19歳とするなどしています(12月)。

さて, 本年の亀太郎の政治活動・議員活動を見ていきましょう。

1月1日, 亀太郎は, 衆議院議員として, 新年の拝賀式に臨んでいます。「昭和十八年ハ大東亜戦争以来第二ノ新年ニシテ, 予ハ茲ニ還暦ノ春ヲ迎フ。朝, 神ニ祈リ, 家庭ノ妻, 重章及ビ中尾淳子ト共ニ雑煮ノ膳ニ向フ。九時市役所へ行キテ拝賀式ニ列シ, 予ハ市長, 議長ト共ニ参列者総代トシテ御真影ヲ拝ス。式後親戚, 知人ノ家ヘ廻礼シ, 又宇和津彦神社及ビ法円寺ヘ参詣シテ, 午後二時帰宅シ, 年始ノ客ニ接ス」。

1月2日以降, 年始客の応対したり, 碁を囲んだりしています。

1月18日, 再開の第81帝国議会²⁴⁾出席のため, 上京の途につきます。その途中, 八幡浜の井上鹿市という老人から蜻蛉保護の請願の要望を受けています。

「議会出席ノ為メ上京ニ就キ, 朝来手荷物等ノ用意ヲ整ヘ, 十三時四十分北宇和島駅発ノ列車ニテ出発ス。八幡浜駅ヘ同市ノ井上鹿市老人来リ, 大洲迄同車シテ, 車中同氏年来ノ希望タル益虫(蜻蛉)保護ニ関スル請願ヲ衆議院ヘ提出方ニ就キ依頼ヲ受ク」。

1月20日の朝, 東京に到着し, 翼賛政治会の議員総会に出席しています。議会は1月21日開会予定でしたが, 東条首相病気のため, 27日まで1週間休会となりました。

そのため, 1月21日以降は, 亀太郎は比較的暇で, ゆっくりしています。21日は美術館へ行き, また鎌倉の華宵宅を訪問するなどしています。22日は午前上京中の上田宇和島市長らと共に, 鉄道省に八幡浜・卯之町間開通促進の陳情を行い, 午後は議案審査部会出席し, 議案の説明を受け, 夜は浅草へ行き, 喜劇を見るなどしています。23日は午後に登院し, 農業団体及び水産団体統合案の説明を聞き, 夜は, 赤坂錦水における三木武吉主催の四国選出議員招待会に

24) 第81議会には, 昭和18年度予算案のほか, 臨時利得税法, 農業団体法等が提出されている。

出席しています。24日は午前神田へ行き、古書を買ひ、夜は岡本代議士と暮をしています。25日は午後登院し、大蔵省関係の議案説明を聞き、夜は赤坂錦水における武智勇記、紅露昭主催の四国選出議員招待会に出席しています。26日も午後登院し、商工省関係の議案の説明を受け、夜は赤坂錦水における三十日の議員懇談会に出席しています。27日は白金三光町の伊達家を訪問するなどしています。

1月28日、ようやく、帝国議会が再開されました。本会議が開かれ、東条首相や谷正之外相、賀屋蔵相の演説がありました。²⁵⁾「十一時ヨリ登院シテ、翼政会ノ代議士会ニ出席シ、午後一時開会ノ本会議ニ出席ス。東条首相、谷外相、賀屋蔵相ノ施政演説アリテ四時四十五分散会退出シ、五時半一ツ橋共立講堂ニ於ケル五流能楽会ヲ観覧ス。梅若万三郎ノ熊野、金剛巖ノ小鍛冶アリ」。

1月29日は、予算委員会を傍聴し（うち物動計画の説明は秘密会）、また本会議に出席しています。「午前十時登院。予算委員会ヲ傍聴ス。秘密会トナリテ、鈴木企画院總裁ヨリ物動計画ノ説明アリ。午後一時本会議ニ出席ス。議案上程、議員側ノ質問アリ。予ハ三時退出シ、夕方ヨリ赤松、牧野両君ヲ案内シテ九段新美好へ行き、会食ノ上九時半帰宿ス」。

1月30日も、予算委員会の傍聴、本会議への出席等しています。「十時登院。議長室ニテ岡田議長ニ会フ。次デ予算委員会ヲ傍聴シ、秘密会ニテ谷外相、青木大東亜相ヨリ国際事情ノ説明ヲ聴キ、午後一時過本会議ニ出席ス。三時半退出」。

1月31日も、予算委員会の傍聴、陸海軍による戦況報告（秘密会）等を聞いています。「十時登院シテ予算委員会ヲ傍聴シ、午前中陸軍、午後海軍ノ当局ヨ

25) 東条はガダルカナル撤退には一切触れず「顧ミマスルニ大東亜戦争開始以来既ニ一年有余、今ヤ帝国ハ御稜威ノ下皇軍將兵ノ善謀勇戦ト銃後国民ノ総力發揮トニ依リマシテ、世界歴史ニ比類無キ大戦果ヲ挙げ米英ノ屈伏ヲ目指シテ堂々ノ歩武ヲ進メツツアリマス……聖戦一年後ノ今日ノ世界最大ノ宝庫南方諸地域ハ全ク我が手ニ確保セラルルニ至ツタノデアリマス……帝国ハ如何ナル大戦争モ遂行シ得ベキ十分ナル資源ヲ得ルニ至ツタ……今ヤ戦争ノ前途ニハ何等ノ不安モナイノデアリマス」などと全くの大言壮語を演説している（『第八十一回帝国議会衆議院議事速記録』昭和18年1月28日）。

リ欧州、東亜全面ニ亘ル戦況ノ説明ヲ聴ク。午後四時退出。毛山、岡本両君ト共ニ築地將木ヘ行キテ、持永勤労局長主催ノ小数囲碁会ニ出席シ、共ニ烏鷺ヲ闘ハシテ十時帰宿シタリ」。

2月1日も、代議士会、本会議、予算委員会等に出席しています。「正午登院。代議士会アリ。午後一時過本会議ニ出席ス。島田海相ヨリソロモン附近戦果ノ報告アリテ後、山崎達之輔氏翼政会ヲ代表シテ質問演説ヲナシ、東条首相答弁シ、三時散会トナル。予算委員会ヲモ傍聴シテ五時退出シ、鉄道協会ニ於ケル農政研究会総会ニ出席シテ、七時毛山君ト共ニ帰宿シタリ」。2月2日も、正午登院し、本会議に出席しています。

2月3日～6日は、鉄道委員会に出席し、4日の日には特に発言しています。「正午登院。昨日ニ引続キ鉄道ノ委員会ニ出席ス。委員長ハ横川重次氏ニシテ、予、発言ヲ求メテ、国鉄建設ノ方針ト十八年度計上路線ニ就テ質問ヲナシ、八田鉄道大臣ノ答弁アリ。次デ小林施設局長ヨリ十八年度施工十七線ノ線名公表アリテ、宇和島線（八幡浜・卯之町間）モ其内ニ含マレ居ルコト明瞭トナレリ。四時過散会帰宿ス」（2月4日）。7日は日曜日で、買い物や東宝へ行き、歌劇をみるなどしています。8日は鎌倉の華宵宅を訪れ、一泊しています。

2月9日は、鉄道委員会、本会議に出席しています。この日、臨時軍事費予算270億円が即決されています。「午後一時過登院。鉄道ノ委員会ニ出デ、一時五十分ヨリ本会議ニ出席シテ、本日上程ノ二百七十億円臨時軍事費予算ノ決議ニ参加ス。委員長ノ報告アリテ直チニ採決ニ入り、総員起立満場一致ヲ以テ即決通過ヲ見タリ」。そして、その夜、亀太郎は一旦帰国の途につきます。

2月14日、亀太郎は再び、議会出席のため、上京の途につき、15日の夜、東京についています。

2月16日、午後、登院し、本会議、商工経済の委員会に出席し、夜は木挽町蜂龍における河上哲太議員在職25年の祝賀会に出席しています。

2月17日も、午後登院し、請願委員会に出席し、八幡浜の井上鹿市提出の蜻蛉保護の請願の紹介議員となり、説明しています。「正午ヨリ登院シ、午後一時

請願委員会へ行キ、八幡浜井上君提出ノ蜻蛉保護ニ関スル請願ニ就キ紹介議員トシテ説明ス。農林省政府委員ノ意見モアリテ、参考送附トスルコトニ決セリ。商工經濟会ノ委員会ニモ出席シテ、二時過退出シ、神田佐々喜旅館ノ岡本君方へ行ク。持永氏、毛山君モ会シ、夕食ノ上、碁ヲ囲ミタリ」。

2月18日は、建議委員会の理事会、商工經濟会の委員会、本会議等に出席しています。「午前十時ヨリ登院。建議委員会ノ理事会ニ出席シテ、委員長漢那憲和氏等ト打合セス。商工經濟会ノ委員会ニ出席シ、次デ午後一時ノ本会議ニ、又三時半議長応接室ニ於ケル蚕糸業関係有志代議士会ニ出席ス。五時帰り、夜、岡本、毛山及ビ県警察部長ニ随行上京中ノ久保君来話ス」。

2月19日～20日は、自動車交通事業法改正の委員会に出席しています。

2月21日は、日曜日で、県選出の代議士達と囲碁をしたり、横浜埠頭や外人墓地等を見学するなどしています。

2月22日は、自動車交通事業法及び商工經濟会の委員会に出席しています。夜は、鉄道大臣官邸における八田鉄道大臣主催の鉄道委員招待晚餐会に出席しています。

2月23日も、本会議、蚕糸業関係議員団の会合等に出席し、夜は芝嵯峨野における、愛媛県選出代議士主催の各省の局長以上の官吏招待会に出席しています。

2月24日は、午前建議委員会、午後自動車委員会に出席し、夜は麴町幸楽における、四国選出代議士の懇親会に出席しています。しかし、体調すぐれず、発熱し、病気になってしまいました。

2月25日は、39度の熱が出て、この儘だと気管支肺炎となる恐れがあるとのことで、日本橋区蠣殻町の甲賀病院に入院しました。入院は2月26日から3月16日まで、19日間にわたりました。その間、多くの見舞い客があり、亀太郎の人柄が伺われます。

3月16日に亀太郎は退院し、翌日から動きだし、17日には親戚の中村純一宅や華宵宅に挨拶に行っています。19日には、登院し、鉄道省に国鉄宇和島線の

工事促進を要請した後、妻らと共に帰国の途につき、21日帰宇しています。

帰国後、多くの訪問客があり、また、家業や種々の用事をしています。しかし、時々発熱したりしています。

4月以降、再び、衆議院議員として活動しています。

4月9日、松山に行き、県選出代議士主催の議会報告座談会に出席しています。「午前九時ノあかつき丸ニテ出発、八幡浜經由松山へ行ク。午后三時着松。直チニ県庁ニ於ケル県選出代議士主催ノ議会報告座談会ニ出席ス。来賓ハ烏谷翼賛会支部幹部、関屋少将、県ノ内政部長、経済部長、官房長等十名位ニシテ、主トシテ代議士側ヨリ各関係法案ニ対スル觀察、政情ノ意見ヲ陳述シ、五時過閉会シタル上、一同梅迺家ニ於テ夕餐ヲ共ニシ、予ハ九時旅館城戸屋ヘ帰レリ」。

5月には、また、八幡浜・卯之町間の鉄道促進運動を始め、13日、上田宇和島市長らと陳情のため上京の途についています。そして、17日の午前、鉄道省を訪問し、鉄道開通促進方を陳情しています。それに対し、鉄道省側は資材不足のため、既設線（吉野生線）の軌条を転用する考えを表明していました。「十時来京中ノ上田市長ト河野松衛君ノ訪問ヲ受ケ、両君ト共ニ鉄道省ヘ行キテ要路ニ会ヒ、八幡浜・卯之町間開通促進ニ就キ陳情ス。業務局長ハ出張不在ニテ、西尾鉄道官ニ会ヒ、施設局ニテハ新局長三浦氏ニ、又長崎鉄道次官、平山総務局長ニ夫々面会懇請シタルガ、省内意向トシテハ吉野生線ノ一部軌条ヲ撤去シテ之ニ転用セントスルニアルガ如ク、予等ハ既設線ヲ維持シ新ニ資材ヲ捻出シテノ敷設ヲ要望シテ、午後〇時半鉄道省ヲ辞去ス」。なお、陳情後は、亀太郎は国技館で大相撲を見物しています。「丸ビルニテ昼食ノ上、一旦上田市長ノ旅宿タル両国宮城館ニ会シテ打合シ、二時ヨリ共ニ国技館ヘ行キテ夏場所大相撲ヲ見物ス。佐々木長治氏夫妻、梶原君ト一枰ニ入り、中入、横綱ノ土俵入ヨリ六時打出シ迄ノ勝負ヲ観テ諸氏ト別レ、予ハ夜浅草散歩、九時帰宿ス」。

5月18日の夜、亀太郎は帰国の途につき、20日帰宇しています。帰宇後、衆議院議員としての活動や家業その他の仕事をしています。5月22日「午前七時朝日町海岸ノ三和造船株式会社ニ於ケル二五〇噸型戦時標準木造船進水式ニ参

列シ、神事アリテ後祝辞ヲ述ブ。八時過無事進水ヲ了リテ帰宅シ、宅用ヲナス。午后四時過ヨリ三和造船ノ祝宴ニ招カレテ、老松ニ出席シタリ」, 5月23日「午前五時臨時召集ノ在郷軍人会米英撃滅大会ニ参列シ、来賓トシテ激励ノ辞ヲ述ブ。場所ハ和霊神苑ナリ。午后一時済美婦人会ノ高松宮殿下台臨七周年記念式ニ列席シタリ」, 5月26日「午后一時商工会議所ニ於ケル市ノ生活物資配給審議会ニ出席ス」等々。

6月15日、第82回臨時帝国議会（6月16日開会、18日閉会）が召集され、その出席のため、10日上京の途につきます。途中、神戸、大阪等に立ち寄り、14日の朝、東京についています。6月14日は、翼賛政治会の代議士会に出席しています。

6月15日は、第82臨時議会²⁶⁾の招集日です。本会議、代議士会に出席し、また、政府委員から議案の説明を受けています。「午前九時鶴代議士ト同車、衆議院ヘ行ク。満州国記念章、非常線突破用ノ身分証明証等ヲ受領シ、又予ガ議席ハ二八九番トナレリ。十時半本会議ヲ開キ部属ヲ定メ(予ハ第二部)、議会成立ス。散会後、代議士会ニモ出席シ、午后予算委員室ニ於ケル政府委員ノ議案説明ヲ聴ク。三時帰宿。来訪ノ氷菓子業者野崎、大森、倉田ノ三人ヲ伴ヒテ農林省ヘ行キ、食糧局工業食品課ノ戸田技師ト会談ス」。

6月16日は、開院式、本会議がありました。本会議では、勅語への奉答文の決議、全院委員長選挙、常設委員の選出(亀太郎は決算委員)、東条首相、陸海相の戦況報告等がありました。「午前十時登院。代議士会ノ後、一同陛下ノ臨幸ヲ奉迎シテ、十一時貴族院ニ於ケル帝国議会開院式ニ参列ス。式後陛下ヲ奉送シ、直チニ本会議ヲ開キテ奉答文起草ヲ議シ、又全院委員長ノ選挙(青山憲三氏当选)、常設委員ノ指名アリテ、予ハ決算委員トナレリ。休憩後午后四時半再会。東条総理大臣ノ施政演説、東条陸相、島田海相ノ戦況報告、之ニ対スル感謝決議、黙禱等ノ後、政府提出案ノ第一読会ヲ開キ、委員附託トシテ七時休憩。

26) この臨時議会には、追加予算案、企業整備法案、食糧増産法案、府県会議員任期延長案等が出されている。

引続キ予算委員室ニ於テ鈴木企画院總裁ヨリ物動計画及ビ生産数量、重光外相ヨリ外交事情ヲ秘密会トシテ聴キ、九時過又本会議ヲ開キテ、府県會議員任期延長案其他ヲ可決シ、九時半散会。十時帰宿ス」。

6月17日も、代議士会、予算委員会の傍聴、本会議等に出席しています。追加予算案やその他の諸案が可決されています。「正午登院ス。食糧増産ニ関スル有志代議士会ニ出席シ、又予算委員会ヲ傍聴シ、午後二時出デテ大森千束町ニ馬來ヨリ帰朝中ノ砂田重政氏ヲ訪問ス。五時院内ニ帰り、代議士会アリテ、九時本会議ヲ開キ、予算案、企業整備ノ諸案等全部ヲ可決シテ十時散会、帰宿ス」。

6月18日が、臨時議会の最終日で、前田米蔵外80名による「米英撃摧一億敢闘決議案」が出され、可決されています。「午前一時本会議ヲ開キテ、一億敢闘ノ決議案ヲ永井柳太郎氏ノ説明アリテ全会一致可決シ、次デ松永懲罰委員長ノ報告アリテ赤尾敏君ヲ譴責ニ処シ、二時休憩ス。衆議院ハ全部議了シ、夕方貴族院ノ終了ヲ待テ正式閉会スル筈ナルヲ以テ、予ハ四時ヨリ金丸匠君ト共ニ出デテ同君宅ヘ行キ、九時旅館ニ帰レリ」。

6月19日が、議会の閉院式です。この日、上京中の上田宇和島市長ら鉄道促進の陳情団と共に、鉄道省への陳情活動を行い、夜は木挽町金田中における久原派の懇親会に出席しています。「午前八時、上京中ノ上田宇和島市長及祖上君来訪。上田、野本ノ両君ト共ニ鉄道省ヘ行キテ、業務局長及ビ同局ノ郷野課長ニ面会、卯之町・八幡浜間ノ開通促進ニ就テ談ズ。十時半ヨリ衆議院ヘ登院シ、十一時貴族院ニ於ケル閉院式ニ列ス。式後直チニバスニ分乗シテ議員一同宮中ニ参入シ、正午正殿ニ於テ拝謁ヲ賜フ。次デ首相官邸ノ午餐会アリ。予ハ一時半ヨリ帝国ホテルヘ行キテ、白城定一氏等地方出身有志ノ鉄道促進ニ関スル協議会ニ出席シ、意見ヲ述ブ。其結果更ニ上田、毛山ノ諸君ト共ニ鉄道省ヘ行キ、四時帰宿。六時ヨリ木挽町金田中ニ於ケル岡田議長ヲ始メ、旧政友会久原派ノ懇親会ニ出席シタリ」。

6月20日の夜、帰国の途につき、途中、松山に立ち寄り、22日、23日の両日、大政翼賛会愛媛支部の県協力会議に出席しています。22日は「九時持田教

育会館ニ於ケル大政翼賛会愛媛支部ノ第六回協力会議ニ顧問トシテ列席ス。午後モ引続キ会議アリ。其間ニ同館応接室ニテ福本知事ト会談、卯之町ノ鉄道陳情方法ニ就キ意見ヲ交換ス。四時會ヲ出デテ県庁ヘ行キ、一旦帰宿。六時ヨリ協力会議ニ来松中ノ赤松勲、赤松貞、二宮卓及ビ西一ノ諸君ト三番町桃太楼ニテ会食シタリ」。翌23日は午前少し会議に出席した後、帰宇しています。「午前九時、教育会館ノ協力会議ニ行キ、十時過退出。十一時二十九分ノ下り列車ニテ松山ヲ出発ス。八幡浜ヨリあかつき丸ニ乗船シテ、五時過宇和島ニ帰着シタリ」。この翼賛会の県協力会議では、生産増強に関する件、戦争生活に関する件が議案として提案され、早起き励行、取引浄化、公事に酒食しない、田畑を遊ばすな、歩行中の禁煙、時間厳守等が申し合わされています²⁷⁾

6月26日には、また、松山に行き、「一億敢闘実践運動」の協議会に出席し、県、翼賛政治会、大政翼賛会の幹部が集まり、7月中旬以降、県民を奮い立たせる運動に着手することを決めています。「午前六時二十五分ノ汽車ニ北宇和島ヨリ乗リテ松山ヘ行キ、十一時着、城戸屋旅館ニ入ル。直チニ県庁ヘ行キテ、商工課、労政課等ニテ夫々用談ノ後、午後二時ヨリ高等官食堂ニ於ケル一億敢闘実践運動ノ協議会ニ出席ス。代議士ハ予ノ外、岡本、村瀬、山中ノ諸氏ニシテ、知事及ビ翼賛会支部ノ堀本君モ参加シ、打合ノ結果、七月中旬ヨリ県下各郡市ヲ分担シテ着手スルコト、ス。吉川経済部長トモ少時話シテ四時帰宿シ、六時ヨリ大本貞太郎君ニ招カレテ梅迺家ニテ晚餐ヲ共ニシ、琴と井ヘモ寄リテ、十時宿ニ帰レリ」。

7月5日には、午前、毛山代議士と会い、「一億敢闘実践運動」の日程を打ち合わせをし、また、午後には南予国鉄速成同盟会の協議会に出席し、亀太郎が報告し、八幡浜・卯之町開通のためには近永線の一部軌条撤収止む得ない旨述べています。「午前十一時ヨリ袋町ときわ食堂ニテ毛山森太郎君ト会見ノ上、南北宇和郡ニ於ケル一億敢闘実践運動ノ日取等ニ就キ打合ヲナシ、昼食ヲ共ニス。

27) 『翼賛国民運動史 下巻』827～828頁。

午後一時市役所ニ於テ開会ノ南予国鉄速成同盟会ノ協議会ニ出席シ、八幡浜・卯之町間開通ニ対スル運動ノ経過ヲ報告シ、最近情勢上近永線ノ一部撤収ノ避ケ難キ事情ヲ説明シテ、其対策ヲ協議ス。開通実現上大体ニ於テ異議ナキモ、関係地区タル鬼北方面ニ難色アリ。明日近永へ出張シテ多数ノ地方有志ニ面接協議スルコト、ス。散会後出席者一同蔦屋ニ於テ会食シ、後、杉内、川野ノ諸君ト老松ヘモ行キテ、九時帰宅ス」。

7月6日には、近永町へ行き、近永沿線の町村長、村会議員等に対し、近永線の軌条撤収止む得ない旨の説明・説得をしています。「午前十一時ヨリ汽車ニテ近永町へ行ク。上田市長、毛山代議士、薬師神県議等モ同行シ、午後一時半近永町産業組合事務所楼上ニ於ケル鉄道問題ノ協議会ニ出席ス。鬼北沿線ノ町村長、村会議員、其他ノ有志、幡多郡ヨリモ二、三町村長参加シテ百余名ニ及ビ、予及ビ毛山、上田ノ諸氏ヨリ交々委曲ヲ尽シテ最近ノ鉄道当局意向ト情勢ヲ説明シタルガ、桂県議ノ発案ニヨリ県ヘモ更ニ善処方ヲ要望スルコト、シテ、五時散会ス。十七時二十一分近永発ノ列車ニテ帰宇シタリ」。

7月14日には、松山に行き、上田市長ら一行と共に県知事に国鉄宇和島線の開通促進方を要請しています。「県庁ニ赴キ、既ニ集合ノ上田宇和島市長、薬師神、佐々木、桂ノ諸県議、鬼北各町村長有志等ト会シテ、十一時共ニ知事応接室ニテ陳情ス。先月来任ノ新知事相川勝六氏ノ外、各部長モ参加ノ上、国鉄近永・吉野間ノ問題ト卯之町線開通促進ニ就テ、予、其他ヨリ談ジ、知事モ善処方ヲ約シテ正午辞去ス」。

7月15日以降、「一億敢闘実践運動」の活動で、北宇和、南宇和郡の各地を回ります。15日には、北宇和郡三島村に行き、講演を行い、村民を鼓舞します。

「九時過ノ汽車ニテ北宇和島ヲ出発、出目ヘ赴キ、同地ニテ省営バスニ乗替ヘテ、十一時半三島村小松ニ着シ、三島村役場ヲ訪フ。村長野地寛氏等ニ迎ヘラレテ、同地ノ旅館ニテ昼食ヲ共ニシ、午後一時ヨリ、豫テノ打合ニヨリ、信用組合楼上ノ広間ニ於テ、翼政会主催、翼賛会支部応援ノ一億敢闘実践運動座談会ヲ開催ス。村長開会ノ挨拶ヲナシ、会衆一同国民儀礼ヲ行ヒタル上、予、起

チテ時局認識ト増産ノ必要ニ就テ三時迄講演シ、次デ座談的ニ各人ノ質議ニ応答シテ、五時閉会ヲ告グ。尚村幹部ト旅館ニテ談ジ、七時十五分日吉ヨリ来レルバスニ乗車シテ三島村ヲ辞ス。出目經由汽車ニ乗替ヘテ、十時家ニ帰レリ」。

7月17日には、岩松町に行き、町民を鼓舞しています。「午後〇時三十分ノ乗合自動車ニテ岩松町ヘ赴キ、二時着。町役場ヨリノ出迎ヲ受ケテ、直チニ国民学校ニ於ケル一億敢闘運動ノ会場ニ出席ス。会集二百名位ニシテ、予ヲ中心トシタル講演及ビ座談会ヲ開キ、五時閉会。引続キ河野町長始メ土地ノ有志三十名許リノ夕餐会催サレ、席上大ニ時局ヲ説明ス」。夜は岩松の大地主小西家に行き、碁会に出ています。「七時ヨリ更ニ小西本家ニ於ケル小碁会ニ招カレ行ク。莊三郎氏ノ外、東出店ノ万兵衛君、町議土居勝馬君、碁客高橋君等ナリ」。翌18日にも小西万衛宅にて碁会をしています。

7月19日には、南宇和郡城辺町へ行き、町民を鼓舞しています。「八時半河野町長等ニ見送ラレテ、宿毛方面行ノ自動車ニ乗り、岩松ヲ出発ス。十一時南宇和郡城邊町ニ着シ、松屋旅館ニ入りテ少憩ノ上、午後一時ヨリ同町国民学校講堂ニ於ケル一億敢闘実践運動ノ会合ニ出席ス。二神町長ノ外、西東外海、金繁緑僧都、中平一本松ノ各村長モ列席。会衆一同ニ対シ、予ヨリ増産等ニ関スル講話座談ヲナシ、四時半了ル。五時十分ノ自動車ニ乗りテ城辺ヲ立ち、夜九時前家ニ帰レリ」。

7月21日は、宇和島市で、市長ら市の指導者を鼓舞しています。「午後一時商工会議所楼上ニ於ケル一億敢闘実践運動ノ座談会ニ出席ス。集ル者上田市長、菊池会議所会頭ヲ始メ百余人ニシテ、孰レモ市ノ指導者階級ナリ。三時迄国際関係戦局事情ヨリ立脚シテ、大々的増産ノ急務ナルト、企業整備促進ノ必要ヲ力説シ、次デ座談会ニ移リテ質議応答ヲ重ネ、四時半閉会ス。六時ヨリ初巡視ニ来宇ノ石原警察部長、渡辺経済部長招待会ニ蔦屋ニ出席ス」。

7月21日の夜から3日間、愛媛県は台風のため、記録的豪雨となり、肱川など県下の諸川が氾濫し、大きな被害が出ています。田畑にも被害が出ています²⁸⁾。

宇和島でも諸川が氾濫しています。その被害状況が日記に詳しい。「夜来大雨降り続キテ諸川増水シ、須賀川モ八幡鉄橋ノ下流等ニテ殆ド堤防ヲ越ス所アリ。田面水溢レ、和霊町方面浸水家屋ヲ生ズ。午前十時頃ヨリ漸ク歇ミテ減水ヲ始ム。……雨ハ午后又降り頻リテ河川再ビ増水シ、夜、鉄橋上手南側ノ堤防危険ヲ感ズルニ至リ、区民防止ニカム。終夜降り止マズ」(7月23日)、「昨夜来ノ大雨ニテ諸溝渠モ皆氾濫シ、吾家前面ノ県道モ一面ニ溢レテ、流水川ノ如クナレリ。鉄橋上手長澤前ノ堤防ハ、益々壊レヲ増シテ決潰ノ惧アリ。区民皆出デ、俵二、三百俵ヲ集メ土囊ヲ作りテ応急防止ニ当ル。十時頃降雨最甚シク、吾家ヨリ下手ハ一面浸水、和霊町一丁目ノ三叉路附近ハ道路上ノ増水腰ニ達シ、其以南ハ脚ヲ没スル程度ニシテ、吾方ノ土堀モ基礎以上ヲ流水ニ洗ハレテ、正午前後ニ県道側二十間、北側十間倒壊ス。鉄道橋下手ノ須賀川流堰モ水越シテ、駅及ビ鶴島町方面モ浸水シ、鉄道堰堤ニ上リテ眺ムレバ、四方湖ノ如クナレリ。午后三時頃ヨリ漸ク小降りトナリテ稍減水ヲ始メ、夕方ニ至リ雨歇ミテ路上水引ク。住宅ノ庭園ハ池水漲リテ鯉魚ヲ殆ド逸シタルガ、向ヒ家ノ庭ハ上手煉瓦堀アル為メ甚シキ溢水ナカリキ。七時朝日町土居ヘ行キタルガ、此方面一帯モ浸水ノ跡著シ。昨今両日ノ和霊祭行事ハ多ク行ハレズ。今回ノ出水ハ風ナカリシモ、雨量ノ多キコトハ伊吹町ニ住居以来三十年間未ダ見ザル所ナリ」(7月24日)、「午前市中ヘ出デテ浸水ノ跡ヲ見ル。龍野川モ溢レテ、北町丸穂、裏町四、五丁目、向新町皆浸水シ、予ガ幼時ノ記憶ニアル明治十九年以来ノ大出水ナリ。午后ハ和霊祭ノ神輿渡御アリシモ、山間地方全部交通杜絶ノ為メ、人出少シ」(7月25日)、「今回ノ出水ハ宿毛ヨリ南宇和郡一円、北宇和郡ハ岩松方面ヨリ三間郷、東宇和郡野村坂石方面ノ被害甚シク、八幡浜方面更ニ多ク、大洲、内子、五郎地方ノ肱川流域最惨状ヲ極メ、浸水軒ニ達シ、多数ノ流失家屋アリ。其他当地方一般ニ河川堤防、田畑ノ破壊損傷多大ニシテ、孰レモ労力奉仕隊ノ出動ニヨリテ応急復旧ニ努メツ、アリ。鉄道線路モ吉野線・卯之町線、松山・

28) 死者・行方不明 134 名、家屋全壊・流失 2043 戸、田畑被害 5896 町歩です(『愛媛県史 県政』344 頁)。

大洲間共不通ニシテ，当分全通ノ見込無キガ如シ」（7月16日）等々。

8月中旬以降，衆議院議員として，水害復旧の活動をしています。13日には，松山での県の水害復旧対策協議会に出席し，国への援助を要望することを決めています。「三時ヨリ県庁知事室ニ於ケル水害復旧対策協議会ニ出席ス。県当局ハ相川知事始メ土肥参事官，各部長，民間側ハ県選出貴衆両院議員ニシテ，県ヨリ被害状況ト損害ノ数字ニ就テ説明アリ。復旧対策上国費助成ノ積極的援助ヲ要望スル為メ，知事ハ直チニ上京シ，予等議員一同モ十九日ヲ期シテ東京ニ会合，之ニ協力スルコト、シ，五時半散会ス。七時ヨリ県ノ招待ニテ亀之井ノ晚餐会ニ行キタリ」。

8月17日に，亀太郎は，国へ水害復旧の陳情のため上京します。

8月19日に，県選出代議士および佐々木長治貴族院議員らと共に，翼賛政治会の政務調査会に出席し，水害状況を説明し，また，関係官庁を訪れ，陳情しています。「午前八時東京着，呉服橋龍名館ニ入ル。十時翼賛政治会本部へ行キテ，県選出代議士全部(毛山君欠)及ビ佐々木貴族院議員ト会シ，直チニ翼政々務調査会ヲ第五会議室ニ開カレ，之ニ出席シテ，水害状況ヲ交々説明ノ上，対策委員会ニ担当セシムルコト、ス。尚民情部長ノ青木代議士ニモ談ジテ其活動ヲ促シ，予等一行ハ別ニ関係各省ヲ歴訪シテ，国費助成率ノ増加ヲ要請スルコト、ス。乃チ午后代議士一同ニテ，賀屋大蔵大臣ヲ官邸ニ訪問面会シ，次デ首相官邸ニテ富田内閣書記官長ニ，内務大臣官邸ニテ国土局長ニ，農林省ニテ石黒次官ニ，厚生省ニテ勤労局ノ課長ニ，夫々面談シテ三時了ル。……五時過赤坂永楽ニ於ケル県下代議士ノ会合ニ出席シ，来京中ノ相川知事，土肥参事官ヲモ招キテ互ニ運動ノ経過ヲ報告打合シ，夕食ヲ共ニシテ七時別ル。予ハ其儘新橋駅へ出デテ省線鎌倉へ行キ，稲村ヶ崎ノ宅ニ弟華宵ヲ訪問ス。十一時頃迄話シテ同家ニ一泊セリ」。

8月20日も，関係官庁に対し，水害復旧について陳情し，また，八幡浜・卯之町間の鉄道敷設促進についても鉄道省へ行き，陳情しています。「九時過翼政本部ニ出向ス。昨日ノ通り県下各代議士ト会シテ，共ニ十一時大蔵次官ヲ本省

ニ訪問要請シ、次デ内務次官々邸ニ於テ唐沢次官ト面談ノ上、午後〇時半首相官邸ヘ行キテ大蔵大臣ニ会フ。県ニ対スル国費助成ハ有望ナルガ如シ。之ニテ一応要路ヘノ陳情ヲ了リ、予ハ野本君ト共ニ銀座ニテ昼食ノ上一旦帰宿シ、更ニ二時半単身鉄道省ヘ行キテ、長崎次官、三浦施設局長、堀木業務局長ニ夫々面会ノ上、八幡浜・卯之町間ノ線路布設ニ就キ要請ヲ重ネタルガ、先日ノ出水ニヨル土工ノ破壊ト軌条難ノ為メ、二ヶ月前ノ形勢ニ比シ実現ノ可能性乏シクナレル感アリ。一段ノ考慮ヲ求メテ四時半退出ス。夜、外出散歩シ、上野ノ寄席ヘ入りテ、九時過旅館ニ帰りタリ」。

8月21日も、鉄道開通促進のため、鉄道省の業務局の郷野総務課長に対し、陳情して、その夜、帰国の途についています。

9月6日には、松山に行き、持田の教育会館における大政翼賛会愛媛支部の第7回「臨時協力会議」に参加出席し、災害復旧と食糧増産にかんする事項を審議しています。²⁹⁾「午前九時二宮卓君ト共ニ教育会館ヘ行キテ、大政翼賛会愛媛支部ノ臨時協力会議ニ出席ス。災害復旧及ビ増産ニ対スル協力会ニシテ、相川知事、其他県各部長ノ挨拶アリテ、後、議事ニ入ル。予ハ其間二十一時頃ヨリ県庁ヘ行キテ、保安課、商工課、社寺教学課ニ就テ夫々ノ要件ヲ談ジ、又萱町ノ製糸業組合ヘ行キテ用弁ノ後、午後二時半再ビ協力会議ニ引返シ、議員ノ提案審議決議等アリテ、五時ノ閉会マデ居ル」。

9月19日から20日にまたまた、台風により、被害を受けています。「朝来雨降り、風モ加リテ時化模様トナリシガ、夕方ヨリ毫雨トナリ、溢水路路面ニ氾濫ス、終夜降り続ク」(9月19日)、「夜来ノ雨、尚歇マズ、東南ノ風強ク台風状態トナリテ須賀川モ増水シ、先々月ノ大水害ヲ想ハシム」(9月20日)。

さて、災害で県民は困難を極めています。戦局の方もますます不利です。米軍はさらに攻勢に出ています。6月以降のニューギニア・ソロモン方面を取って見ても、米軍は6月30日にソロモン群島中部のレンドバ島に、ニューギニア

29)『翼賛国民運動史 下巻』828頁。

北岸のナッソウ湾に、7月5日にニュージョージア島に上陸し、8月15日にはベララベララ島に、9月4日にはニューギニアのラエ・サラモアに、9月22日にはフィンシハラーフェンに上陸しています。また、アリューション方面では、アッツ島の玉砕（5月29日）に続き、7月29日キスカ島から撤退し、8月25日に米軍がキスカ島に上陸しています³⁰⁾

そして、このような敗退のなかで、9月30日の御前会議は「今後採るべき戦争指導大綱」を決定し、「絶対国防圏」をマリアナ・カロリン・西ニューギニアの線に後退させています。

そして、戦争体制建て直しのために、東条内閣は、また、10月26日から3日間の臨時議会（第83回臨時帝国議会、10月26日開会、28日閉会）を開いています。この議会は軍需会社法の制定が主要な目的です。政府が軍需会社を指定し、命令により軍需生産の増強（特に航空機生産）を図らせるものです。

10月22日、亀太郎は臨時議会出席のため、上京の途につき、23日の午後東京についています。

10月25日が、臨時議会の招集日です。夜は旧政友会代議士の議員懇話会に出席しています。「第八十三帝国議会召集ノ日ナリ。午前十時衆議院ニ登院ス。程ナク開会。予ノ議席ハ二八九番ナリ。岡田議長議會ノ成立セルコトヲ宣シテ散会トナリ、岡本、毛山両代議士ト共ニ旅館ニ帰りテ、午後碁ヲ囲ム。又一、二来訪者アリ。五時ヨリ銀座松本樓ニ於ケル旧政友会代議士組織ノ議員懇話会ニ出席シテ、八時帰宿シタリ」。

10月26日が開院式です。開院式での勅語に感激しています³¹⁾ また、本会議があり、本会議では、勅語への奉答文の決議、常任委員の選出、東条首相、陸海相の戦況報告等があり、議場は緊張³²⁾ しています。「午后十時登院。十一時貴族

30) 『近代日本史総合年表』、『第八十三回帝国議会衆議院議事速記録』10月26日の東条陸相、嶋田海相の戦況報告。

31) 勅語は「……今や時局ハ洵ニ重大ナリ、宜ク億兆一心更ニ総力ヲ發揮シ以テ敵国ノ非望ヲ破碎スヘシ、朕ハ臣民ノ忠誠勇武ニ信倚シ、速ニ征戦ノ目的ヲ達成セムコトヲ期ス……」である（『第八十三回帝国議会貴族院議事速記録』昭和18年10月26日）。

院ニ於ケル開院式ニ列ス。天皇陛下親臨、優渥ナル勅語ヲ賜ヒ、一同感激。式後奉答文起草及ビ決議ノ本会議アリテ、一旦休憩トナル。……予ハ決算委員トナリ、委員会ヲ開キテ理事トナレリ。午後四時本会議ヲ再会シ、傍聴席超満員、緬甸国代表等モ傍聴裏ニ東条総理大臣登壇、施政演説ヲナシ、議場緊張ス。次デ陸海軍大臣ノ戦況報告、之ニ対スル感謝決議、祈念黙禱アリテ後、議案ノ第一読会ヲ開キ、予算委員会其他ニ附シテ七時散会、帰宿ス。更ニ八時ヨリ鎌倉ヘ赴キ、弟華宵ヲ訪ヒテ一泊ス」。

10月27日、午後登院し、軍需会社法案の委員会、本会議等に出席しています。「午前一時登院。軍需会社法案委員会ノ秘密会ニ於テ、佐藤軍務局長ヨリ航空機製作ニ関スル説明ヲ聴ク。三時海軍省政府委員室ニテ、属平尾勲氏ニ会ヒ、人事ニ就テ聴ク所アリ。更ニ商工省ヘ行キ、又逋信省ニ中村電務局長ヲ訪ヒテ、再ビ院内ニ帰り、七時ヨリ開カレタル本会議ニ出席ス。軍需会社法案ヲ始メ予算案其他ヲ可決シ、又応召議員数氏ニ対スル牧野良三氏ノ祝辞アリ。島田俊雄氏等勤続議員ノ顕彰モアリテ、八時三十五分散会」。この軍需会社法は、10月31日に公布され、12月17日から施行されています。

10月28日が、臨時議会の最終日です。本会議に出席し、諸案、また、前田米蔵外の「大東亜総決起ニ関スル決議案」を議決しています。「午後……衆議院ニ登院シ、本会議ニ出席ス。先日関釜聯絡船ニテ殉難ノ助川、加藤両代議士ニ対スル追悼演説、又中野清五郎氏ニ対スル弔辞等アリテ、二時半休憩トナリ、七時再開ノ上残余ノ諸法案ヲ可決シ、大東亜総決起ノ決議案ヲ通過セシメテ、七時三十七分閉会、帰宿ス」。

10月29日が、閉院式です。「午前十時半登院シテ、十一時貴族院ニ於ケル閉院式ニ列ス。式後一同宮城ニ参内シテ、正午正殿ニ於テ拝謁ヲ賜フ。引続キ首相官邸ノ午餐宴ニモ出席シ、一旦帰宿ノ上、午後二時ヨリ鶴見ヘ行キ、芝浦電

32) 東条は、「戦局ノ推移ハ吾々ニ一刻ノ猶予モ与エテ居ラナイ」と述べ、行政運営の決戦化のため、軍需省、農商省、運輸通信省の設置、国民動員の拡大のため徴集、徴用の範囲の拡大、国内防衛体制の強化のため、防空総本部の設置等を唱えている（『第八十三回帝国議会貴族院議事速記録』昭和18年10月26日）。

車ノ新芝浦ニ下車シテ、芝浦電気株式会社芝浦支社ヲ訪ヒ、資材部ノ林氏ニ面会用談シテ四時辞シ、東京ニ帰ル。夜、東宝ノ名人会へ行キタリ」。

10月31日に、亀太郎は帰国の途についています。帰途の途中、広島県豊田郡東野村矢弓へ行き、売りに出されている機帆船末広丸を見にいき、11月2日帰宇しています。

11月は、機帆船の購入、宇和島への搬送、末広丸の修繕等々の家業面の記事が続きます。また、12月には、木工会社の設立の記事が続いています。その間、衆議院議員としての活動の記事も若干あります。「午前八時御荘山下晃君ノ学生応召入営ノ出発ヲ樺崎栈橋ニ見送り、……」(12月6日)、「午前八時入営兵ノ出発ヲ樺崎ニ見送り、……」(12月9日)、「十一時北宇和島駅発ノ汽車ニテ出発、松山へ行ク。卯之町・八幡浜経由、午後四時半松山ニ着シ、城戸屋旅館ニ投宿ス。……六時ヨリ梅迺家ニテ催サル、相川知事主催今夕来松ノ翼賛政治会総裁阿部信行大将歓迎招待会ニ出席ス。県幹部ト県選出代議士ノミノ少人数ニテ阿部総裁ト懇談シ、九時帰宿シタリ」(12月11日)等。

12月21日に、亀太郎は叙勲を受けています。「衆議院ヨリ速達到着。今回支那事変ノ功ニヨリ文官行賞ニ際シ、予ニモ叙勲発令ノ伝達アリタル趣ニテ、叙勲四等授瑞寶章トノ通知ナリ」。

12月23日、第84回帝国議会(12月26日開会、19年3月24日閉会)出席のため、また、上京の途につき、途中、松山、神戸で所用をなし、26日の朝、東京についています(24日が招集日で間にあっていません)。

12月26日が、開会日です、開院式³³⁾ 本会議がありました。「汽車遅レテ十時ヲ過ギ東京へ入りタルヲ以テ、新橋駅ヨリ下車シ、直チニ衆議院へ行キテ、予

33) 天皇の勅語は「朕カ外征ノ師ハ懸軍萬里沍寒ヲ凌キ炎熱ヲ冒シ勇戦奮闘愈々其ノ威武ヲ発揚シ、朕カ銃後ノ臣民亦克ク艱苦ニ堪ヘ生産ニ勤メ齊シク奉公ノ誠ヲ致セリ。而シテ帝国ト友邦トノ盟約ハ益々固キヲ加ヘ興亜ノ大業日ヲ逐ヒテ進ム。朕深ク之ヲ悦フ。今ヤ彼我ノ攻防愈々急ニシテ戦局最モ重大ナリ。宜ク億兆一心国家ノ総力ヲ挙ケテ敵国ノ非望ヲ破碎スヘシ。朕ハ臣民ノ忠誠勇武ニ信倚シ、速ニ征戦ノ目的ヲ達成セムコトヲ期ス……」である(『第八十四回帝国議会貴族院議事速記録』昭和18年12月26日)。

等ノ控室ニテ礼装ニ改メタル上、十一時貴族院ニ於ケル開院式ニ列ス。天皇陛下親臨、優渥ナル勅語ヲ賜フ。式後奉送ノ後、本会議アリテ、奉答文ノ起草及ビ成案ノ決議ヲナシ、午后休憩トナル。其間ニ院内書記官長室ヘ行キテ、先日下賜セラレタル勲章ヲ大木書記官長ヨリ伝達ヲ受ク。勲記ハ昭和十五年四月二十九日附ニシテ、支那事変ノ功ニヨル勲四等瑞寶章ナリ。本会議再開会、常設委員ノ選挙等アリ。予ハ二時退出シテ、呉服橋龍名館ニ投宿ス」。

そして12月27日は、午後登院し、代議士会、本会議に出席し、陸海相による戦況報告等を聞いています。そして、自然休会となり、その夜帰国の途についています。「正午登院、代議士会アリテ、午后一時本会議ヲ開キ、一旦休憩ノ後三時再開。陸海両大臣ノ戦況報告、院ノ感謝決議、戦死者ニ対スル黙禱、勤続議員表彰等アリテ、五時散会ス。年内ハ之ニテ休会シ、一月二十一日再開ノ筈ナルヲ以テ、今夜帰国スルコト、シ、帰宿後荷物ヲ整ヘ、二十一時発大阪行急行列車ニテ東京ヲ出発ス」。

12月31日、1年間を振り返り、次のように回顧しています。「今春東京ニテ感冒ニ罹リ、肺炎ノ惧アリテ入院セシモ、幸ニ早く快癒シ得タルハ天祐ニ外ナラズ。七月地方ニ稀有ノ出水アリシモ、吾家ニハ大ナル損害ヲ招カザリキ。家庭ニハ一年ヲ通ジテ異動ナク、家ニ予等夫婦、孫重章ノ家族ト親戚ノ淳子及ビ女中居リ、松山ニハ重雄、倭文ノ外、孫ノ一女三男住居ス。家業ハ前年来山林ノ経営、旧工場建物ノ貸住宅改造ヲ継続シ、製糸機械類ノ更生金庫引受モ決定シタレバ、近頃新ニ木造機帆船ヲ購入シテ海運業ヲ始メタルト、会社組織ノ木工々場設置ニ着手セリ。還暦ニシテ、尚心身壮健ナレバ、或程度ノ企業ニヨリテ時局柄余生ヲ有意義ニ送ラントスルナリ。支那事変軍事予算決議ノ衆議院議員行賞ニヨリテ、年末帶勲者トナレリ」。